

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療倫理学	平塚 健太	2	1	前期
授業概要	臨床で求められる医の倫理感を身に着ける基礎となる講義を行う			
到達目標	臨床における倫理観, マナー, 常識を知り, 理解できるようになる			
授業計画				
1	倫理とは	オリエンテーション・倫理の概要を理解する		
2	医療における倫理	医療倫理の4原則について理解し、考えを述べることができる		
3	医療者と患者の関係①	医療面接の基本的な考えを理解し、考えを述べることができる		
4	医療者と患者の関係②	医療面接の手法を理解し、考えを述べることができる		
5	コメディカルの職業倫理①	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解する		
6	コメディカルの職業倫理②	理学療法士・作業療法士の職業倫理を理解し、考えを述べることができる		
7	生命誕生のあらまし①	出生前診断, 胚選別, 妊娠中絶について理解する		
8	生命誕生のあらまし②	出生前診断, 胚選別, 妊娠中絶について理解し、考えを述べることができる		
9	薬害と医療事故	薬害の歴史や医療事故について理解し、考えを述べることができる		
10	人工臓器	ES 幹細胞移植 iPS細胞の治療や倫理的問題を理解する		
11	臨床研究の倫理①	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる		
12	臨床研究の倫理②	臨床研究における倫理の歴史を基に考えを述べることができる		
13	障害の受容	障害を受け入れる過程について理解する		
14	終末期医療, 安楽死と尊厳死	終末期医療と尊厳死について理解を深め, 自分の考えを述べるができる		
15	まとめ	症例課題に基づき自分の考えをまとめ, 述べるができる		
教科書	必要に応じて提示する	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	教養としての生命倫理	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
心理学	林 美都子	2	1	前期
授業概要	人の認知機能からメンタル・心の在り方，対人関係までの仕組みを講義する			
到達目標	人の心の在り方を理解し，他者の気持ちに寄り添えるような思考を持てるようになる			
授業計画				
1	認知心理学の歴史について	認知心理学の歴史から現代の心理学について学ぶ		
2	人間の心理機能①「認知」	精神，心について現代の心理学を踏まえ理解できる		
3	人間の心理機能②「知覚」	時間・空間・運動の知覚/知覚の諸相 について理解できる		
4	人間の心理機能③「学習」	古典的条件づけ，オペラント条件づけ，観察学習について理解できる		
5	人間の心理機能④「記憶」	記憶のメカニズム，忘却，記憶の歪みについて理解できる		
6	人間の心理機能⑤ 「動機づけ」	動機づけの分類と機能，自己効力，学習性無気力について学習し，セルフエフィカシーの測定演習を行い動機づけについて理解を深める		
7	人間の心理機能⑥「感情」	感情発生のメカニズムと機能，欲求不満について理解を深める		
8	まとめ	人間の心理機能①～⑥までの内容を総括し理解を深める（小テストも実施する）		
9	メンタルヘルスとストレス	具体的にストレス度の測定を演習し，ストレスの考え方やメンタルヘルスについて理解を深める		
10	パーソナリティ	パーソナリティの記述法，測定法について理解する		
11	人間の心理機能⑦「知能」	知能の定義，知能の測定法を学習し，人間の社会生活に影響する知的障害とは何かを理解する		
12	人間の心理機能⑧「思考」	思考とはなにか，問題解決能力とは何かを考察し，創造性の本質について理解する		
13	人間の心理機能⑨「決定」	効用の評価や確率の判断について理解する		
14	メタ認知について	メタ認知について理解し，自己洞察についての方法を考えることができる		
15	認知心理学の今後	認知心理学を日常生活でどのように活用するか，しているかについて理解できる		
教科書	・基礎から学ぶ認知心理学 人間の認識の不思議	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
英語演習Ⅰ	濱田 貴文	2	1	前期
授業概要	日常で使用する基本的な言い回しや単語を修得できるよう講義演習を行う 英単語を理解ながら英文にふれる機会を増やし語彙力の向上ができるよう講義演習を行う リスニングの能力向上を促す			
到達目標	基本的な単語や文について修得し、簡単な会話ができるようになる 読みやすい英語書物にふれてみる			
授業計画				
1	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
2	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
3	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
4	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
5	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
6	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
7	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
8	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
9	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
10	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
11	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
12	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
13	キクタン英会話 リスニングと英文読解	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む		

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
英語演習Ⅱ	濱田 貴文	2	1	後期
授業概要	日常で使用する基本的な言い回しや単語を修得できるよう講義演習を行う 英単語を理解ながら英文にふれる機会を増やし語彙力の向上ができるよう講義演習を行う リスニングの能力向上を促す			
到達目標	基本的な単語や文について修得し、簡単な会話ができるようになる 読みやすい英語書物にふれてみる			
授業計画				
1	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
2	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
3	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
4	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
5	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
6	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
7	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
8	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
9	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
10	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
11	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
12	キクタン英会話 リスニングと英文読解 語彙力	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む 辞書ソフトを使用して単語を調べ、語彙力の向上を図る		
13	キクタン英会話 リスニングと英文読解	英語を音として聞き、言葉として理解し、会話内容を理解し応用して表出してみる 簡単な英文を聞き辞書ソフトを使用し文の内容を理解しながら読む		

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療物理学	古館 裕大	2	1	前期
授業概要	本講義は、①ヒトの動作と②医療機器の2つに焦点を当て、それらの物理学的な仕組みについて述べていく。本講義は、運動学をはじめ、様々な専門科目と密接な繋がりがあがる。			
到達目標	PT・OTに必要不可欠である物理学の基礎を理解できるようになる。特に、複雑な現象の背後に存在する仕組みを明らかにし、単純なモデルで考えられるようになる。			
授業計画				
1	オリエンテーション・基礎数学①(単位換算)	本講義の概要、医療物理学の必要性を把握できる。また、SI基本単位、SI組立単位の換算ができるようになる。		
2	基礎数学②(三角比・ベクトル)	医療物理学で用いる基礎的な数学を復習できる。特に、三角比とベクトルの考え方を理解できる。		
3	位置、速度、加速度	物体の運動を考える方法と、物体の位置、速度、加速度を理解できる。		
4	力のつり合い①(力のつり合いの基礎)	力のつり合いについて理解でき、簡単なつり合いの計算ができるようになる。		
5	力のつり合い②(力のつり合いの分析)	力のつり合いの分析を行うことができる。特に、ヒトの身体を矢状面・前額面・水平面の3つに分解した時の、それぞれの面におけるつり合いの分析ができる。		
6	ヒトの運動の力学①(重心運動)	ヒトの運動を重心の運動と見立てた時の現象を理解できる。特に、重心と支持基底面の関係について理解できる。		
7	ヒトの運動の力学②(てこと関節運動)	ヒトの運動で発生する関節運動について理解できる。特に、モーメントとてこの原理について理解できる。		
8	中間試験・医療機器の物理①(温度と熱)	中間試験を通して自身の理解度を確認できる。熱を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる。		
9	医療機器の物理②(波)	波を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる。		
10	医療機器の物理③(波・電磁気)	波・電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる。		
11	医療機器の物理④(電磁気)	電磁気を利用した治療・医療機器を学ぶための基本的な仕組みについて理解できる。		
12	リハビリテーション工学概論①(ロボティクス)	ロボティクスの医療分野への応用について、様々な事例を用いて知ることができる。特に、力学的な視点から、安全性について考えることができる。		
13	リハビリテーション工学概論②(人工知能)	人工知能の医療分野への応用について、様々な事例を用いて知ることができる。さらに、人工知能の基礎をなす最適化問題の考え方について知ることができる。		
14	医療物理学まとめ①	力学の範囲内で国家試験で出題される問題を演習し、これまでに学んだ内容を復習できる。		
15	医療物理学まとめ②	熱、波、電磁気の範囲で国家試験で出題される問題を演習し、これまでに学んだ内容を復習できる。		
教科書	PT・OTゼロからの物理学	履修条件	15回の講義の内、4回以上欠席の場合は単位が取得できない	
参考書	特になし	留意事項等	不明な点が現れた時は、いつでも教員にアクセスすること	
成績評価	小テスト、中間試験、期末試験により総合的に評価			
備考	特になし			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療統計学	古館 裕大	2	1	後期
授業概要	統計学の基本的な考え方と、医療への応用を見据えた内容を扱う。本講義は、理学療法研究法と作業療法研究法と密接な繋がりがある。			
到達目標	データ処理の基本的な考え方や手法を理解できる。また、実際にデータを取得してR言語による解析を行うことで、どのようにデータを処理するかをイメージできる。			
授業計画				
1	統計学の考え方	統計学の根幹を成す考え方である実世界とモデルの関係を理解できる。また、実世界とモデルの実例として、因果関係の考え方が理解できる。		
2	記述統計学① (データ解釈のリテラシー)	データを読み取るうえで必要なリテラシーを理解できる。特に、ダメグラフ（不適切なグラフ）を見極めることができる。		
3	記述統計学② (データの尺度と要約)	質的変数、量的変数について理解できる。また、それらのデータの代表値の意味を理解できる。		
4	記述統計学③ (グラフの読み取りと描画)	質的変数に関するグラフの読み取りと描画ができるようになる。		
5	記述統計学④ (グラフの読み取りと描画)	量的変数に関するグラフの読み取りと描画ができるようになる。		
6	記述統計学⑤ (グラフの読み取りと描画)	2変量のグラフの読み取りと描画ができるようになる。		
7	記述統計学⑥ (データの記述の演習)	与えられたデータの可視化や代表値による要約ができ、データから結論を導き出すことができる。		
8	母集団と標本、推定量	母集団と標本、推定量の意味を理解できる。		
9	バイアス	バイアスの考え方と問題点、具体的なバイアスの種類（選択バイアス、情報バイアス、交絡バイアス）を理解できる。		
10	統計的仮説検定① (検定の手続き)	統計的仮説検定の大まかな流れを理解できる。特に、帰無仮説と対立仮説の違いを理解でき、結論の誤り方（第1種の過誤、第2種の過誤）を見極めることができる。		
11	統計的仮説検定② (p値と信頼区間)	p値と信頼区間の意味を理解できる。特に、バイアスの存在も考慮して、p値が有意水準未満（有意水準以上）だった時の解釈ができるようになる。		
12	統計的仮説検定③ (カイ二乗検定)	統計的仮説検定の実例として、カイ二乗検定を理解できる。		
13	統計的仮説検定④ (平均値の差の検定)	統計的仮説検定の実例として、対応のあるt検定と対応のないt検定を理解できる。		
14	医療統計学関連トピック① (診断の指標)	感度、特異度、陽性尤度比の意味を理解でき、実際に計算できる。		
15	医療統計学関連トピック② (有意差の解釈)	数理的に導き出された有意差と臨床における意味のある差の違いを理解できる。特に、MCIDの考え方を理解できる。		
教科書	はじめてのR：ごく初歩の操作から統計解析の導入まで	履修条件	15回の講義の内、4回以上欠席の場合は単位が取得できない	
参考書	特になし	留意事項等	不明な点が現れた時は、いつでも教員にアクセスすること	
成績評価	小テスト、中間試験、期末試験により総合的に評価			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
医療情報科学演習	外館 洸平	2	2	前期
授業概要	パソコン操作を不便なく行うことができ、ICT化する臨床現場に対応できるように推奨する情報収集のあり方などを、講義・演習を通して習得できる			
到達目標	パソコンの基本的な使用方法と情報リテラシーを身につけ、自身で取りまとめた情報を対外的に公開することができるようになる			
授業計画				
1	オリエンテーション	パソコンの基本的な操作を習得することができる		
2	Gmail、OneNoteについて	パソコンを使用したメールでの連絡をすることができ、OneNoteを使用して授業のノートをとることができる		
3	PowerPointについて①	基本的な操作方法を理解し、プレゼンテーション用の資料を作成することができる		
4	PowerPointについて②	PowerPointを使用してプレゼンテーションを実施できる（グループ1）		
5	PowerPointについて③	PowerPointを使用してプレゼンテーションを実施できる（グループ2）		
6	Wordについて①	基本的な操作を理解し、文章を入力することができる		
7	Wordについて②	レイアウト変更や図表の挿入ができ、見やすい文章を作成することができる		
8	Wordについて③	時間内に見本文章通りの書類を作成することができる		
9	Excelについて①	基本的な操作を理解し、グラフを作成することができる		
10	Excelについて②	四則計算を行うことができ、Excel関数を使用した計算を行うことができる		
11	Excelについて③	データの種類に応じたグラフを選択し、他のソフトウェアへ表やグラフの挿入ができる		
12	情報リテラシー①	個人情報や著作権の取り扱いについて理解できる		
13	情報リテラシー②	情報の倫理に配慮した情報の収集・発信を行うことができる		
14	文献検索①	文献検索の意義を理解し、文献検索を行うことができる		
15	文献検索②	リハビリテーションに関連したテーマについて文献検索を行うことができる		
教科書	資料配布	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	各回で課題の提出を求め、提出物が指定された条件を満たしているか採点する 中間テスト、期末テスト、課題の3項目の総合判断で評価する			
備考	基本操作の紹介は行うが、操作の習熟は各自の自己練習に期待したい			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学	成田 大一	2	1	前期
授業概要	人体の構造ならびにその機能について運動器、循環器、消化器などの器官系に分けて系統的に学習する。			
到達目標	全ての医学的知識の基礎となる人体の構造を理解し、専門分野の学習のための基盤を構築する。			
授業計画				
1	入門	医療職として解剖学の重要性を理解できる		
2	運動器系概論：骨格系	骨格を形成する骨・軟骨について構造や役割、それらの連結を理解できる。		
3	運動器系概論：筋系	骨格筋の構造と関節の構成要素について理解できる。		
4	運動器系概論：神経系	特に末梢神経系について、その種類や特徴を理解できる。		
5	循環器系概論	動脈と静脈の特徴ならびに大動脈とそこから分岐する枝、リンパ管系についてその概要を理解できる。		
6	運動器系各論：体幹	体幹の骨格構造（形状や特徴）について講義資料・骨格模型を用いて学習するとともに、体幹の運動に関連する筋の起始・停止や支配神経について理解できる。		
7				
8				
9				
10	運動器系各論：上肢	上肢の骨格構造（形状や特徴）について講義資料・骨格模型を用いて学習するとともに、上肢の運動に関連する筋の起始・停止や支配神経について理解できる。		
11				
12				
13				
14				
15				
16	復習	これまで学習した概論（骨格系・筋系・神経系・循環器系）ならびに運動器系（体幹・上肢）について復習し、理解を深めることができる。		
17	運動器系各論：下肢	下肢の骨格構造（形状や特徴）について講義資料・骨格模型を用いて学習するとともに、下肢の運動に関連する筋の起始・停止や支配神経について理解できる。		
18				
19				
20				
21				

22			
23	運動器系各論：頭頸部	頭頸部の骨格構造（形状や特徴）について講義資料・骨格模型を用いて学習するとともに、表情筋や咀嚼筋，外眼筋など脳神経に支配される筋について理解できる。また，目や耳といった関連する感覚器の構造について理解できる。	
24			
25			
26			
27	循環器系	心臓の構造や全身の動静脈など循環器系の詳細を理解できる。	
28			
29	呼吸器系	鼻腔から肺に至る呼吸器の構造と機能を理解できる。	
30			
教科書	グレイ解剖学第4版	履修条件	電子教科書にて授業を進行する。PCを用意すること30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	必要に応じて適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	小テスト，中間・期末試験，振り返りテスト，授業態度により総合的に評価する		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
解剖学演習	成田 大一	1	1	後期
授業概要	脳・神経系、内臓系について、先行する解剖学の知識をさらに深めることができるよう講義・演習を行う			
到達目標	理学療法や作業療法において、治療的介入法の基盤となる中枢神経系・内臓系の構造と機能について理解できる			
授業計画				
1	髄膜と脳脊髄液、脳室系 脳の血管	内頸動脈系と椎骨動脈系 動脈輪 脳室と脳脊髄液の循環経路 について理解できる		
2	終脳：大脳皮質、 大脳基底核、大脳辺縁系	大脳皮質、大脳基底核、大脳辺縁系について理解できる		
3	大脳の白質：投射線維、 連合・交連線維	投射線維、連合線維、交連線維について理解し、中枢神経内のneural circuit の概要を理解できる		
4	脳幹：中脳－橋－延髄、	脳幹部（中脳－橋－延髄）の構造と機能 各種伝導路などについて理解できる		
5	小脳と間脳：小脳、視床、 視床下部	小脳、間脳（視床、視床下部）の構造と機能 について理解できる		
6	脳の復習	脳の構造と各種伝導路について復習し、理解を深めることができる		
7	脳神経の種類と特徴	脳神経とは何か、その構造と機能について理解できる		
8	自律神経系	自律神経系の構造と機能について理解できる		
9	消化器系	口腔から直腸に至る消化器の構造と機能を理解できる。		
10				
11	泌尿・生殖器系	腎臓や膀胱、尿道などの泌尿器と精巣や卵巣、子宮などの生殖器について男女の違いも含めてその構造と機能を理解できる		
12				
13	内分泌系	内分泌系の構造と機能について理解できる		
14	発生学	特にPT・OTに必要とされる筋や神経系の発生について理解できる		
15	組織学	細胞の基本構造を学習するとともに、特にPT・OTに必要とされる筋の組織構造について理解できる		
教科書	生体の仕組み標準テキスト 第3版	履修条件	PCにて授業を行う15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	グレイ解剖学第4版など	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学	石田 裕二	2	1	前期
授業概要	生体機能の基礎的知識（生命活動の本質），呼吸，循環，消化，排泄，それらを調節する自律神経や内分泌系の働きを学習する 特に各種の障害に深く関係する神経生理学を重視した内容を展開する			
到達目標	生体機能についてそのメカニズムの理解を深め，専門分野の学習が円滑に行うための基礎医学的知識を習得し，医学的視点からフィジカルアセスメントにつながる基礎的な知識を深めることができる			
授業計画				
1	概説	生命現象とは何か，人体の構造とその概略についてイメージできるようになる		
2	細胞 ①	生命の原点である細胞の構造と機能についてその概略が理解できる		
3	細胞 ②	分極，脱分極，再分極など細胞膜と生命現象の関係の概略を理解できる		
4	細胞 ③	静止膜電位，活動電位の発生メカニズムについて理解できる		
5	血液・体液 ①	血球成分・血漿成分について，構造・組成と機能が理解できる		
6	血液・体液 の循環	動脈，静脈，リンパの構造と機能の概略が理解できる		
7	神経系 ①	神経細胞の構造，中枢神経と末梢神経の構造と機能について理解できる		
8	神経系 ②	神経細胞やシナプスの構造と機能，ニューラルサーキットについて理解できる		
9	神経系 ③	脳神経，上位運動ニューロン，下位運動ニューロンについて理解できる		
10	神経系 ④	上行路と下行路の詳細を学習し，その機能を理解できる		
11	神経系 ⑤	脊髄反射の回路の概略を把握し，上位・下位運動ニューロンとの関係性が理解できる		
12	神経系 ⑥	錘内筋の構造と各種の制御機構について理解できる		
13	神経系 ⑦	錐体路障害と錐体外路障害の概要が理解できる		
14	神経系 ⑧	動物機能としての神経系を把握し，神経障害の概要を理解できる		
15	神経系 ⑨	中枢神経系（脳・脊髄）の構造と機能の概略を説明できる		
16	神経系 ⑩	交感神経と副交感神経の構造と機能について理解する		
17	呼吸 ①	内呼吸と外呼吸 気管・肺の位置と機能 水素イオンと重炭酸イオンについて理解を深めさせる		
18	呼吸 ②	スパイログラムの意味，換気障害の分類，酸塩基平衡の概略が理解できる		

19	循環器 ①	心臓と動静脈の構造と機能、刺激伝導系の概略について理解できる	
20	循環器 ②	心電図とは何か、そのメカニズムについて理解する	
21	循環器 ③	心電図の波形の意味について考えを深め、代表的な異常心電図についてその発生機序を考察できる	
22	筋生理と運動 ①	筋の種類・分類を学習し、筋収縮のメカニズムを理解できる	
23	筋生理と運動 ②	ATP産生過程と代謝について理解できる	
24	泌尿器 ①	腎臓の構造と機能についての概略を理解できる	
25	泌尿器 ②	自律神経と排尿機構について神経学的に理解できる	
26	内分泌 ①	内分泌に関わる臓器、ホルモンの作用などを理解できる7	
27	内分泌 ②	ホルモンとともに恒常性の維持に関する機能を理解する	
28	内分泌 ③	内分泌疾患の概略を理解できる	
29	消化器 ①	消化器の構造と機能について概略が理解できる	
30	消化器 ②	消化酵素（化学的消化）の作用について理解できる	
教科書	Qシリーズ 新生理学	履修条件	電子教科書にて授業を進行する PCを用意すること30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	ギャノン生理学	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
生理学演習	石田 裕二	1	1	後期
授業概要	生理学演習では生理学で学んだ知識を具体的に演習を通じて体験し、臨床に必要な不可欠な知識の理解を深める			
到達目標	臨床現場に必要な基礎的な知識と技術（バイタルサインの計測など）を習得し、専門領域につながる技能を習得する			
授業計画				
1	循環器系の計測	循環動態と血圧の関係を理解し医学的根拠を持って血圧を計測することができる		
2	心電図 ①	心電図の基礎的なメカニズムを理解することができる		
3	心電図 ②	標準12誘導と胸部単極誘導について臨床的意味を説明できるようになる		
4	心電図 ③	異常心電図と正常心電図を比較し、病的問題点を評価できるようになる		
5	心電図 ④	標準12誘導を具体的に計測し、その臨床的技術を習得する		
6	呼吸器系 ①	呼吸器疾患の臨床像とスパイログラムの関係を理解できる		
7	呼吸器系 ②	スパイログラムを用いた肺機能の計測を体験し理解を深める		
8	呼吸循環 ①	有酸素運動と無酸素運動、ATポイントなどの意味を理解する		
9	呼吸循環 ②	運動負荷試験を体験し臨床的意義や基礎的知識を習得する		
10	筋電図 ①	筋電図の波形についてその意味を理解できる		
11	筋電図 ②	筋電図データの解析についてその意味と手法を理解できる		
12	筋電図 ③	表面筋電計を用いて具体的に計測し波形と骨格筋・神経制御の実態を把握できる		
13	筋電図 ④	誘発筋電計を用いてF波やH波の計測し、脊髄の興奮性について理解を深める		
14	筋電図 ⑤	誘発筋電計を用いて末梢神経伝導速度を計測し、臨床的意義を理解する		
15	感覚検査	表在・深部感覚の具体的な計測から、神経障害の症状についての理解を深める		
教科書	Qシリーズ 新生理学	履修条件	電子教科書にて授業を進行する PCを用意すること15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	ギャノン生理学	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
人間発達学	千葉 馨	1	1	前期
授業概要	人が成長する過程について中枢神経系の発達を中心に社会的に活躍し老年期に至るまでを理し、その各ステージでの理学療法士・作業療法士の関わる視点を理解できる			
到達目標	新生児期からの発達過程に関わる神経系の理解と身体活動について理解できる			
授業計画				
1	人間発達学の学び方	ヒトの発達について学ぶにあたり必須用語や講義のあらましについて理解できる		
2	発達の概念	胎芽と胎児の発達過程に始まり、人間発達期、発達の主な原則などが理解できる		
3	発達理論と発達検査	発達理論（所説）を元に発達検査の評価内容から正常発達について理解できる		
4	姿勢反射、反応	発達過程における反射・反応について学び、正常な発達の獲得の背景である中枢の成熟、筋と骨格の成長について理解できる		
5	運動発達0~3か月	健常児における0～3か月の運動発達について理解できる		
6	運動発達4~6か月	健常児における4～6か月の運動発達について理解できる		
7	運動発達7~9か月	健常児における7～9か月の運動発達について理解できる		
8	中間試験	講義の1～7回目の内容について中間テストを行う		
9	運動発達10~12か月	健常児における10～12か月の運動発達について理解できる		
10	運動発達13~18か月	健常児における13～18か月の運動発達について理解できる		
11	姿勢反射、反応 6歳まで	6歳までに見られる姿勢反射および反応獲得について理解できる		
12	上肢機能の発達	ヒトの上肢機能を学び、成長過程で獲得できる運動等について理解できる		
13	ADLの発達	中枢神経系の発達と日常生活活動動作（ADL）の獲得の関係性を理解できる		
14	感覚・知覚・認知・社会性の発達	環境の刺激情報処理である感覚、知覚、認知について学び、感覚システムの発達について理解できる		
15	学童・青年・成人・老年期の発達	学童期から老年期までの発達について理解できる		
教科書	上杉雅之監修 イラストでわかる人間発達学 医師薬出版株式会社	履修条件	前講義の1/3を欠席すると取得できない	
参考書	講義資料中に示す	留意事項等	・適宜小テストを不定期に行 で授業で行った部分の理解・ の補完を常に行うこと	
成績評価	中間および期末試験、授業態度、提出物について成績の対象とする。 以上「C評定」より単位修得となる			
備考	授業終了後の理解度アンケート、不定期な小テスト等を実施する。 積極的な質問を歓迎する。			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学	羽澤 晃士	2	1	前期
授業概要	運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、その理論的基盤をなす専門基礎科目である。本授業科目では、正常な身体運動を理解するうえで必要な運動器の基本構造と機能を学ぶ。さらに、身体各部位の関節構造と機能を関節運動と関連づけて学習し、機能解剖学的視点から四肢、脊柱・体幹、頭部における各関節運動の仕組みを深める			
到達目標	リハビリテーションの対象となる運動障害のメカニズムを理解するために、身体運動を遂行するうえで必要な運動器（筋骨格系・神経系）の基本構造と機能を学び、四肢、脊柱・体幹、頭部における各関節運動の仕組みについて説明できるようになる			
授業計画				
1	オリエンテーション 運動学とは	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法等の説明と、運動学という学問領域について理解できる		
2	骨の構造と機能	骨格を形成する骨の名称、骨の基本構造と機能について理解できる		
3	関節の構造と機能 ①	関節の基本構造、関節の分類について理解できる		
4	関節の構造と機能 ②	運動軸と運動面を基準とした関節運動の表し方、関節包内における関節運動の表し方について理解できる		
5	骨格筋の構造と機能 ①	骨格筋の構造、活動電位、筋収縮機序について理解できる		
6	骨格筋の構造と機能 ②	筋線維の種類、運動単位、筋の収縮様式について理解できる		
7	骨格筋の構造と機能 ③	筋の働き、筋肥大と筋萎縮について理解できる		
8	骨格筋の構造と機能 ④	筋の静止張力と活動張力（筋張力）、関節トルク（関節モーメント）について理解できる		
9	生体力学	身体とてこの関係、筋力と重力の関係、外力と内力について理解できる		
10	体位と重心 ①	体位と構え、基本肢位、重心が規定される要素について理解できる		
11	体位と重心 ②	重心線と支持基底面の関係、基本的立位姿勢の理想的アライメントについて理解できる		
12	肩複合体の運動学 ①	肩複合体の構造、関節運動について理解できる		
13	肩複合体の運動学 ②	肩複合体の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		
14	肘関節・前腕の運動学 ①	肘関節・前腕の構造、関節運動について理解できる		
15	肘関節・前腕の運動学 ②	肘関節・前腕の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		

16	手関節の運動学 ①	手関節の構造, 関節運動について理解できる		
17	手関節の運動学 ②	手関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		
18	股関節の運動学 ①	股関節の構造, 関節運動について理解できる		
19	股関節の運動学 ②	股関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		
20	膝関節の運動学 ①	膝関節の構造, 関節運動について理解できる		
21	膝関節の運動学 ②	膝関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		
22	足関節の運動学 ①	足関節の構造, 関節運動について理解できる		
23	足関節の運動学 ②	足関節の関節運動における靭帯および筋の作用について理解できる		
24	脊柱・体幹の運動学 ①	脊柱全体の基本構造と機能について理解できる		
25	脊柱・体幹の運動学 ②	頸椎の構造, 頸部の運動と関与する筋の作用について理解できる		
26	脊柱・体幹の運動学 ③	胸郭の構造, 胸部の運動と関与する筋の作用について理解できる		
27	脊柱・体幹の運動学 ④	腰椎の構造, 腰部の運動と関与する筋の作用について理解できる		
28	顔面と頭部の運動学	顎関節の構造, 関節運動, 筋の作用, 顔面の表情に関わる筋の作用について理解できる		
29	動作分析入門 ①	上下肢の単一関節運動に関して, 運動方向や主動筋, 拮抗筋, 支配神経を述べる ことができる		
30	動作分析入門 ②			
教科書	基礎運動学		履修条件	30回の講義なので, 7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	運動学 (15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)		留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テスト, 中間テスト, 定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動学演習	羽澤 晃士	1	1	後期
授業概要	本実習では、運動学で身につけた知識をもとに、種々の身体運動・動作を実際に観察、計測して、身体運動・動作の仕組みについてさらに理解を深める。実習はテーマ毎に小グループに分かれて行い、分析結果をグループ内で討議してレポートにまとめる。			
到達目標	リハビリテーションの対象となる運動・動作障害に対する評価を実践するために必要な運動・動作の観察および計測方法について学び、正常な運動・動作を分析できるようになるとともに、分析した結果を説明できるようになる。			
授業計画				
1	ガイダンス ①	本科目の概要や学習目標、内容、スケジュールの説明を受けて、学習方法や実習レポートの書き方について理解を深める		
2	ガイダンス ②			
3	体表解剖 ①	上肢、下肢、体幹の骨ならびに筋の触診を行い、各部位の形状、骨の形・ランドマーク、筋の走行、筋の起始停止、筋腹や腱の形状、求心性・遠心性収縮時における筋緊張と張力の関係などを確認し理解を深める		
4	体表解剖 ②			
5	体表解剖 ③			
6	項目別実習 ①	小グループを結成し、粗大な筋力の把握、静的姿勢から動的姿勢へ移行するときの姿勢分析、合目的動作（寝返り・起き上がり・座位・立位・歩行）における動作分析などを演習し、健全な成人の運動パターンについての知識を深め、病態運動学等の専門科目につながる基礎的な知識が理解できる		
7	項目別実習 ②			
8	項目別実習 ③			
9	項目別実習 ④			
10	項目別実習 ⑤			
11	項目別実習 ⑥			
12	項目別実習総合指導 ①	小グループで計測した項目別実習のデータを分析して、運動学的視点からの考察を述べ（発表し）、ディスカッションを行うことで、人体の動きを臨床的視点で理解できるようになる		
13	項目別実習総合指導 ②			
14	項目別実習総合指導 ③			
15	項目別実習総合指導 ④			
教科書	基礎運動学	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	運動学（15レクチャーシリーズ） 理学療法・作業療法テキスト	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床運動学演習	横山 寛子	1	2	前期
授業概要	既習の運動学で学習した内容を臨床的視点で応用し分析する力を養えるよう講義，演習を行う 主に筋の作用と関節運動、徒手筋力検査法について実技を通して講義，演習を行う			
到達目標	応用的な運動学について分析的な視点に基づき徒手筋力検査法を実施できるようになる			
授業計画				
1	徒手筋力検査とは	筋力とは何かが理解できる。徒手筋力検査（MMT）の概略，臨床的意義について概略を理解できる。		
2	肩関節の筋力検査①	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，肩関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
3	肩関節の筋力検査②	肩関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，肩関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
4	肩甲帯の筋力検査	肩甲帯のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，肩甲帯の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
5	肘関節の筋力検査	肘関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，肘関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
6	手関節の筋力検査	手関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，手関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
7	筋力検査総合演習 ①	上肢筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる		
8	筋力検査総合演習 ②	上肢筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる		
9	股関節の筋力検査 ①	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，股関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
10	股関節の筋力検査 ②	股関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，股関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
11	膝関節の筋力検査	膝関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，膝関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
12	足関節の筋力検査	足関節のMMT測定を演習し，手技を習得できる また，足関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
13	筋力検査総合演習 ③	下肢筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる		
14	筋力検査総合演習 ④	下肢筋力検査の復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる		
15	筋力検査総合演習 ⑤	徒手筋力検査の全般的な復習を通じて，臨床に必要な技能を習得することができる		
教科書	『新・徒手筋力検査法 原著第10版 (協同医書出版社)』	履修条件	講義・演習ではPCを使用することもある 15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	『基礎運動学 (医歯薬出版株式会社)』	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
病態運動学演習	成田 大一	1	2	後期
授業概要	過去に学んだ運動学に基づいた分析方法を各症例に当てはめて、治療方法を提案できるように講義演習を行う			
到達目標	過去に学んだ運動学に基づいた分析方法を各症例に当てはめて、治療方法を提案できるようになる			
授業計画				
1	脳性麻痺のケース ①	脳性まひにおけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
2	脳性麻痺のケース ②	脳性まひにおけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
3	脳血管障害のケース ①	脳血管障害におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
4	脳血管障害のケース ②	脳血管障害におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
5	脳血管障害のケース ③	脳血管障害におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
6	脊髄損傷におけるケース ①	脊髄損傷におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
7	脊髄損傷におけるケース ②	脊髄損傷におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
8	脊髄損傷におけるケース ③	脊髄損傷におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
9	整形疾患におけるケース ①	整形疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
10	整形疾患におけるケース ②	整形疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
11	整形疾患におけるケース ③	整形疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
12	整形疾患におけるケース ④	整形疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
13	神経疾患におけるケース ①	神経疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
14	神経疾患におけるケース ②	神経疾患におけるケースについて分析，治療方法を提案できる		
15	まとめ	重複障害における分析視点を統合的に理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
病理学	檜木 広一	1	1	後期
授業概要	病理学を構成する項目について種々理解できるように講義を行う			
到達目標	病理学を構成する項目について種々理解できる			
授業計画				
1	オリエンテーション	この科目の学び方や心構えについて理解できる		
2	血行異常の様態 ①	浮腫, 充血・鬱血, 出血, 血栓, 寒栓, 虚血・梗塞について理解できる		
3	血行異常の様態 ②	側副循環, 先天性奇形, ショック, 血圧の異常について理解できる		
4	炎症と免疫	炎症の症状とそれに抗う免疫機構について理解できる		
5	移植と再生治療	様々な移植治療と最新の再生治療について理解できる		
6	代謝異常	代謝異常のメカニズム, 代謝異常で起こる病気について理解できる		
7	感染症 ①	感染のメカニズムと宿主の防御機構について理解できる		
8	感染症 ②	主な病原体と感染症, 治療と予防について理解できる		
9	代謝障害	代謝障害: 脂質代謝障害, タンパク質代謝障害, 糖尿病, その他の代謝障害 について理解できる		
10	先天異常と遺伝子異常	先天異常の分類, 遺伝子異常の分類, 診断と治療について理解できる		
11	腫瘍: 定義と分類	良性及び悪性腫瘍, 発生病理, 診断と治療, などについて理解できる		
12	中毒	中毒について, その原因物質や症状, 治療法を理解できる		
13	遺伝病	遺伝様式のメカニズムを学習し, PT・OTが特に関わる遺伝病について理解できる		
14	老化と死	老化に関わる病理学的変化や死について理解できる		
15	まとめ	PT・OTの臨床に特に必要な事項を振り返り, 理解を深めることができる		
教科書	病理学 標準理学療法学・作業療法学	履修条件	15回の講義なので, 4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害学	平山 繁樹 太田 知明 川上 信也 北川 はるみ	1	2	前期
授業概要	基礎的内容の内科学領域の内容を論じる 内科領域の疾患の概念、診断学の基礎、生活習慣病の予防や栄養指導などにも触れる			
到達目標	正確な病態の理解とフィジカルアセスメントに必要な知識を習得し理解できるようになる			
授業計画				
1	総論	内科領域の疾患および治療の概念が理解できる		
2	代謝性疾患	代表的な生活習慣病である糖尿病の診断、治療の概略を理解できる		
3	内分泌系疾患	脳下垂体、上皮小体、副腎などの内分泌器官の疾患・障害について概略を理解できる		
4	消化器系疾患	消化器の構造と機能の概要を理解し、各疾患の概要を理解できる		
5	循環系の疾患 ①	高血圧、動脈硬化など血管病変に関わる疾患を理解できる		
6	循環系の疾患 ②	虚血性心疾患、不整脈について理解できる		
7	呼吸器系の疾患 ①	閉塞性換気障害と拘束性換気障害について理解できる		
8	呼吸器系の疾患 ②	各種の肺疾患を分類し、その症状と循環器系への影響について説明できる		
9	泌尿器疾患	腎機能不全について原因や症状について理解できる		
10	血液疾患	造血作用異常や各種の血液疾患について説明できる		
11	感染症	ウィルス性・非ウィルス性感染症の違い それらの対処・治療法について説明できる		
12	予防の基礎	一次予防、二次予防、三次予防の概念が理解できる		
13	栄養 ①	在宅医療における栄養管理の意義や方法を理解できる		
14	栄養 ②	具体的に行われている在宅医療における栄養指導について理解できる		
15	栄養 ③	NST (Nutrition Support Team) の機能をふまえ、多職種連携にけるOT・PTの役割と活動内容について理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学 I	石田 裕二	1	2	前期
授業概要	神経障害はPT・OTの治療対象の中核をなすものであり、臨床神経学の知識は直接治療技術に反映する。本科目は神経解剖から症候学まで必要不可欠かつ基本的な内容を網羅する			
到達目標	神経系の構造と機能を熟知し、様々な症候を医学的に理解できるようになる			
授業計画				
1	神経解剖 ①	中枢神経系（脳・脊髄）の解剖，機能局在が理解できる		
2	神経解剖 ②	中枢神経と末梢神経の構造と機能が理解できる（脳神経を中心に）		
3	神経解剖 ③	上行路と下行路，各種伝導路の構造と機能を理解できる		
4	神経解剖 ④	錐体外路，小脳の伝導路の名称，構造と機能を理解できる		
5	神経症候学 ①	上位ニューロン障害と下位ニューロン障害の特徴を説明できる		
6	神経症候学 ②	錐体路障害による脊髄解放現象により起こる症状を理解できる		
7	神経症候学 ③	錐体外路症状について理解できる		
8	神経症候学 ④	高次脳機能障害について理解できる		
9	神経症候学 ⑤	認知症の分類，症状，周辺症状（BPSD）などを説明できるようになる		
10	神経症候学 ⑥	小脳症状，球麻痺症状などの症状について理解できる		
11	神経症候学 ⑦	脊髄損傷の様々な症状・障害について理解できる		
12	神経症候学 ⑧	ミオパチーとニューロパチー，筋委縮の病態や分類について理解できる		
13	神経症候学 ⑨	内科疾患で惹起される神経・筋症状についてそのメカニズムを理解できる		
14	画像診断学	様々な神経症状と画像の関係性について理解できる		
15	まとめ	仮想症例に関してさまざまなアセスメントを展開できるようになる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害学Ⅱ	平塚 健太	1	2	前期
授業概要	神経障害学Ⅰの内容を踏まえ、本科目は具体的な神経疾患とその症状・治療について論じる			
到達目標	リハビリテーションに必要な神経疾患の理解を深め、専門領域で治療学に応用できる知識を習得し治療に応用できるようになる			
授業計画				
1	脳血管疾患 ①	多種の脳血管疾患の疫学と診断について理解できる		
2	脳血管疾患 ②	脳血管疾患に起因する症状や治療法について理解できる		
3	脳卒中 ①	脳卒中の危険因子・脳卒中の分類及び特徴について理解できる		
4	脳卒中 ②	脳卒中の分類別における症状や治療について理解できる		
5	脳卒中 ③	脳卒中の急性期における治療や特徴について理解できる		
6	脳卒中 ④	脳卒中の回復期及び維持期における治療や特徴について理解できる		
7	認知症	認知症を惹起する疾患や分類・中核症状・周辺症状について理解できる		
8	高次脳機能障害	失語症・失認・失行等の高次脳機能障害の特徴について理解できる		
9	パーキンソン病	高齢者によくみられるパーキンソン病の症状や治療法を説明できる		
10	神経筋疾患 ①	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる		
11	神経筋疾患 ②	各種の変性疾患(SCD・MS・PSP等)について理解できる		
12	脊髄損傷	脊髄損傷の症状、高位診断、神経学的評価法などを説明できる		
13	遺伝病・遺伝子異常	遺伝子に起因する疾患の特徴について説明できる		
14	医用画像 ①	実際の症例や画像情報などから症状・障害を推測し医学的に考察できる		
15	医用画像 ②			
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考	筋ジストロフィーやALSの特徴について理解できる			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
精神医学	佐藤 裕一	1	1	後期
授業概要	精神に関する基礎知識から病理までの知識を身に付け、リハビリテーションを前提に理解を進めることができるよう講義を行う			
到達目標	精神について、精神医学についての理解を深め、リハビリテーションと関連した思考ができるようになる			
授業計画				
1	総論 ①	精神医学とは何か、その概略を理解できる		
2	総論 ②	精神疾患の分類、症状論、検査、神経症性障害とその周辺疾患について概略を理解できる		
3	総論 ③	様々な治療（薬物療法、精神療法、リハビリテーション、心理学的アプローチ、認知行動療法など）について、その概略を理解できる		
4	総論 ④	認知症、器質性精神病、薬剤性精神障害について理解できる		
5	各論 ① 気分障害	気分障害の分類や症状について理解できる		
6	各論 ② 統合失調症	統合失調症の分類や症状について理解できる		
7	各論 ③ 神経症性障害	様々な神経症領域の障害について、その症状や環境要因の関係などを理解できる		
8	各論 ④ 人格障害	様々な人格障害について、その症状や環境要因の関係を理解できる		
9	各論 ⑤ 依存症	アルコール依存や薬物依存などの病態とそれらの治療について理解できる		
10	各論 ⑥ 自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラム症（ASD）や広汎性発達障害について理解できる		
11	各論 ⑦ てんかん	てんかんの分類や症状について理解できる		
12	各論 ⑧ 認知症	認知症の原因疾患、分類、症状の特徴などが理解できる		
13	治療学 ①	各種の精神疾患に対する治療的介入法（薬物療法、精神療法、心理学的アプローチ、作業療法など）について、期待できる効果について理解できる		
14	治療学 ②			
15	リエゾン精神医学	リエゾン精神医学における理学療法士・作業療法士の役割について理解できる		
教科書	精神医学 標準理学療法学・作業療法学	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			
科目名	教員氏名		単位	配当年次	開講期
老年期障害学	平塚 健太 佐藤 嶺		1	1	後期
授業概要	老年期の特徴を理解し、我が国における老年医学、高齢者医療について理解できるよう講義を行う				
到達目標	老年期の特徴を理解し、我が国における老年医学、高齢者医療について理解できる				
授業計画					
1	老年医学とリハビリテーションについて	老年期医学とリハビリテーションの関係について理解できる			
2	加齢に伴う変化 ①	老年期の感覚機能の変化について理解できる			
3	加齢に伴う変化 ②	老年期の生理機能形態学的変化について理解できる			
4	加齢に伴う変化 ③	老年期の運動・認知・精神心理面の変化について理解できる			
5	高齢者の機能評価①	高齢者特有の機能評価について理解できる			
6	高齢者の機能評価②	高齢者特有の機能評価について理解し、実践できる			
7	脱水と代謝	加齢に起因する代謝障害について理解できる			
8	栄養と服薬アドヒアランス	高齢者に必要な栄養や評価、服薬アドヒアランスについて理解できる			
9	老年期症候群について①	代表的な老年期症候群について理解できる			
10	老年期症候群について②	代表的な老年期症候群について理解できる			
11	循環器疾患について	代表的な老年期症候群について理解できる			
12	呼吸器疾患について	代表的な循環疾患について理解できる			
13	高齢者のリハビリテーション①	高齢者のリハビリテーションについて理解できる			
14	高齢者のリハビリテーション②	高齢者のリハビリテーションに必要なリスク管理について理解できる			
15	高齢者の終末期医療について	緩和ケア・ホスピスなど終末期医療と高齢者との関係を理解できる			
教科書	老年学 標準理学療法学・作業療法学		履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中		留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 				
備考					

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害学	成田 大一 多田 博 平山 拓也 覚田 尚人 大村 健久 木村 中	1	2	前期
授業概要	運動器に纏わる疾患について発生と治療法について知り、理解できるよう講義を行う			
到達目標	多様な運動器疾患の症状と治療法について知り、具体的な作業療法・理学療法の治療技術をイメージできる			
授業計画				
1	総論① 骨の発生と成長 軟骨・関節の基本構造	骨の発生と成長と軟骨・関節の基本構造について理解できる		
2	総論② 神経損傷・末梢神経障害	末梢神経障害の症状と治療について理解できる		
3	各論① 肩・上肢	肩に見られる様々な疾患の症状や障害について学び、整形外科的な治療について理解を深める		
4	各論② 肩・上肢			
5	各論③ 肩・上肢	肘・前腕・手に見られる様々な疾患の症状や障害について学び、整形外科的な治療について理解を深める		
6	各論④ 肩・上肢			
7	各論⑤股関節・膝・足部	変形性膝関節症および股関節症 診断（画像）と観血的治療やその他について		
8	各論⑥股関節・膝・足部	靭帯損傷の治療 観血的治療やその他 診断（画像）と観血的治療やその他について		
9	各論⑦股関節・膝・足部	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折等） 診断（画像）と観血的治療やその他について		
10	各論⑧股関節・膝・足部	切断 観血的治療やその他 診断（画像）と観血的治療やその他について		
11	各論⑨ 脊柱疾患	圧迫骨折・破裂骨折・狭窄症の治療 診断（画像）と観血的治療やその他について		
12	各論⑩ 脊柱疾患	頸髄症・末梢神経障害（上肢を中心に）の治療 診断（画像）と観血的治療やその他について		
13	各論⑪ 脊柱疾患	腰痛・椎間板ヘルニアの治療 診断（画像）と観血的治療やその他について		
14	各論⑨ 熱傷	熱傷の深度や面積の判定、気道熱傷など、熱傷の病態について理解を深め、それらの治療法について概略を理解できる		
15	各論⑩ 熱傷			
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
薬理学	今島 昌三	1	1	後期
授業概要	リハビリテーション分野において、必要なる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。			
到達目標	リハビリテーション分野において、必要なる薬理学の概念について理解できる			
授業計画				
1	オリエンテーション (薬理学の基礎知識)	人体にとって「異物」であるクスリとは何か、臨床薬理学の概念を説明できる		
2	薬物の投与方法と効果	経口剤 注射薬 点滴薬 座薬など、投与方法とその意味について説明できる		
3	抗感染症薬	抗ウイルス剤や抗菌剤などについて理解を深める。また、ワクチンの効能についても説明できる		
4	消炎鎮痛薬	副腎皮質ステロイド剤 NSAIDs などの作用・効果の概略を説明できる		
5	自律神経系作用薬	交感神経や副交感神経に作用するクスリ、 α 遮断薬や β 遮断薬の作用の概略を説明できる		
6	抗アレルギー薬	アレルギーの分類やアナフィラキシーなどの理解を深め、それに対応する薬剤の効果について説明できる		
7	呼吸器系の薬	COPDや間質性肺炎などに投与される薬剤について説明できる		
8	循環器系の薬 ①	降圧剤および昇圧剤の薬理作用について説明できる		
9	循環器系の薬 ②	抗不整脈剤や冠動脈に作用する薬などの概略を説明できる		
10	神経系の薬 ①	脳浮腫の改善、脳機能の賦活、筋緊張の調整などに作用する薬剤について理解する		
11	神経系の薬 ②	パーキンソン病などの錐体外路障害、認知症に対する薬剤について理解する		
12	精神科領域の薬 ①	抗精神病薬の薬理効果について説明できる		
13	精神科領域の薬 ②	双極性障害の薬、抗てんかん剤、抗不安剤、などの向精神薬の概略を理解できる		
14	抗悪性腫瘍薬	悪性腫瘍の種類とそれに対応する薬剤の効果について理解できる		
15	内分泌系の薬剤	代謝異常やホルモン異常で惹起される症状とそれに対応する薬剤の効果について説明できる		
教科書	シンプル薬理学改訂第5版	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害学	高橋 和俊	1	2	前期
授業概要	子どもの発達についての考え方とリハビリテーションについて理解できるように講義を行う			
到達目標	子どもの発達とリハビリテーションについて理解できる			
授業計画				
1	人間の発達過程	発達段階諸説について復習を行い、発達過程について理解できる		
2	NICU対象児	NICU対象児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
3	脳性麻痺	脳性麻痺児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
4	知的障害	知的障害児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
5	進行性筋ジストロフィ	筋ジストロフィ児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
6	重症心身障害児	重症心身障害児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
7	骨関節疾患	骨関節疾患児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
8	二分脊椎	二分脊椎児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
9	自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムについての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
10	学習障害	LDについての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
11	注意欠陥多動症	ADHDについての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
12	頭部外傷に伴う高次脳機能障害	頭部外傷と高次脳機能についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
13	小児がんその他	小児がんについての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
14	内部障害	内部障害児についての病態とリハビリテーションのかかわりについて理解できる		
15	発達障害のためのリハビリテーション	発達障害のためのリハビリテーションについて理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床心理学	諏訪 麻依子	1	1	後期
授業概要	クライアントへの心理的な評価が行える知識と技術を理解し、臨床的な知識を身につけることができるよう講義を行う			
到達目標	心理アセスメントの方法、具体的な心理療法に関する基礎的な知識を身につける			
授業計画				
1	オリエンテーション	臨床心理学の歴史から現代の考え方までを知り、理解することができる		
2	障害受容	障害受容の過程について理解できる		
3	人格理論	性格の類型論と特性論を理解できる		
4	学習理論	学習の成立、強化因子、条件付けなどが理解できる		
5	防衛機制 ①	防衛機制とは何かその概略を理解する		
6	防衛機制 ②	様々な防衛機制について、その特徴を理解できる		
7	心理療法総論	心理療法の概略、治療者とクライアントの心理的反応などを理解できる		
8	心理発達	発達段階と発達過程について理解できる		
9	面接技法	心理療法における基本的技法について理解できる		
10	心理療法各論 ①	森田療法、自律訓練法、集団精神療法について理解できる		
11	心理療法各論 ②	精神分析療法、行動療法、内観療法について理解できる		
12	心理療法各論 ③	来談者中心療法、箱庭療法、催眠療法、実存分析について理解できる		
13	心理療法各論 ④	認知行動療法を中心に、現代の臨床技術について理解できる		
14	心理検査 ①	様々な人格検査の特徴と技法について理解できる		
15	心理検査 ②	様々な（広義の）知能検査について理解できる		
教科書	面白いほどよくわかる！臨床心理学	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
救急医学	武山 佳洋	1	2	後期
授業概要	本科目では主な外傷と疾病について応急処置の方法やその必要性を説明する これらの内容は フィジカルアセスメントに応用できるものとする			
到達目標	応急処置の必要性を理解し医療施設以外の場所でも正しい所処置ができるようになる			
授業計画				
1	外傷 ①	皮膚の構造や機能を理解し、皮膚の損傷に対する応急処置ができるようになる		
2	外傷 ②	脱臼、捻挫に対する応急処置ができるようになる		
3	外傷 ③	骨折に対する応急処置ができるようになる		
4	外傷 ④	頭部外傷患者に対するアセスメント（意識障害など）ができる		
5	外傷 ⑤	頭部外傷患者への応急処置ができるようになる		
6	外傷 ⑥	出血による発生する問題（ショックなど）を理解できる		
7	外傷 ⑦	大量出血の患者に対する応急処置（止血など）ができるようになる		
8	疾患 ①	呼吸循環不全の患者のアセスメントができるようになる		
9	疾患 ②	呼吸循環不全の患者に対する応急処置ができるようになる		
10	疾患 ③	蘇生に関する手技の意味を理解できる		
11	疾患 ④	演習：心肺蘇生術について実技の中でその技能を習得する		
12	疾患 ⑤	熱傷の重症度分類や9の法則、治療に関する知識を習得する		
13	疾患 ⑥	重症度に対応した熱傷への応急処置ができるようになる		
14	医療機関での救急医療 ①	事故・外傷により搬送された患者に対する処置について理解する		
15	医療機関での救急医療 ②	医療機関における心筋梗塞や脳血管障害患者への処置について理解する		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
スポーツと健康科学	横山 寛子	1	2	後期
授業概要	様々なスポーツ外傷、障害の発生機序と病態について概説するとともに、代表的なスポーツ傷害に対する理学療法の実践について学習する。また、傷害予防・再発予防の見地からスポーツ現場で行われているメディカルチェック、コンディショニング、テーピング等の手法の実際を理解する。			
到達目標	スポーツ傷害に対する理学療法についての基礎知識を理解し技術を習得するために、スポーツ外傷、障害の発生機序と病態、その理学療法および傷害予防について学び、代表的なスポーツ傷害に対する理学療法について説明と実践ができる。			
授業計画				
1	総論 ①	オリエンテーションを通じてスポーツ傷害の理学療法の概略が理解できる		
2	総論 ②	各スポーツにおける運動器障害について、その発生機序などを理解できる		
3	スポーツ傷害の応急処置	スポーツ時受傷の応急処置について、アセスメントと処置について理解できる		
4	腰部のスポーツ傷害	腰背部のスポーツ傷害に対応する理学療法について理解できる		
5	股関節のスポーツ傷害	股関節のスポーツ傷害に対応する理学療法について理解できる		
6	腰部・股関節テーピング	腰部・股関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる		
7	足関節のスポーツ傷害	足関節のスポーツ傷害（捻挫・アキレス腱断裂など）に対する理学療法について理解できる		
8	足関節テーピング	足関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる		
9	膝関節のスポーツ傷害①	頻度の高い膝関節（半月板・靭帯損傷など）のスポーツ傷害についてその概要を理解できる		
10	膝関節のスポーツ傷害②	膝関節のスポーツ傷害に対する具体的な理学療法について理解できる		
11	膝関節テーピング	膝関節のスポーツ傷害に対するテーピングを実践できる		
12	肩関節のスポーツ傷害	腱板断裂など、肩関節のスポーツ傷害に対する理学療法について理解できる		
13	肘・手関節のスポーツ傷害	肘・手関節のスポーツ傷害（テニス肘など）の理学療法について理解できる		
14	上肢テーピング	肩・肘・手関節スポーツ傷害に対するテーピングを実践できる		
15	コンディショニング	スポーツ選手のコンディショニングについて理解できる		
教科書	「石山修盟，著：正しく効果的に巻ける！テーピングの新しい教科書（日本文芸社）」	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	講義内で適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
言語障害治療学	野村 昌邦	1	2	前期
授業概要	失語症や嚥下障害のリハビリテーションを通して言語聴覚士の仕事について理解できるように講義を行う			
到達目標	失語症や嚥下障害のリハビリテーションを通して言語聴覚士の仕事について理解できる			
授業計画				
1	言語障害と脳機能について	言語聴覚士の役割と言語障害, かかわる脳機能について理解できる		
2	責任病巣と症状について	責任病巣と症状について理解できる		
3	球麻痺と仮性球麻痺	球麻痺症状の診断学的根拠について理解できる		
4	言語障害総論 ①	言語障害の分類(失語症と構音障害の違いなど)について理解できる		
5	言語障害総論 ②	言語的コミュニケーションの障害について概略が理解できる		
6	失語症 ①	運動性失語と感覚性失語(超皮質性失語の概念も含む)について理解できる		
7	失語症 ②	伝導失語と復唱障害, 呼称障害, 音読障害について理解できる		
8	失語症の評価 ①	失語症の評価の種類, 意義, 解釈について理解できる		
9	失語症の評価 ②	失語症の評価の種類, 意義, 解釈について理解できる		
10	失語症の評価 ③	失語症の評価の種類, 意義, 解釈について理解できる		
11	失語症のリハビリテーション ①	失語症のリハビリテーションについて ケーススタディを通して理解できる		
12	失語症のリハビリテーション ②	失語症のリハビリテーションについて ケーススタディを通して理解できる		
13	失語症のリハビリテーション ③	失語症のリハビリテーションについて ケーススタディを通して理解できる		
14	嚥下障害について ①	嚥下障害の症状と評価について理解できる		
15	嚥下障害について ③	嚥下障害のリハビリテーションについて理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので, 4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで, 適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
症例検討演習	平塚 健太	1	2	後期
授業概要	同職種、他職種との連携を主体にケース課題や事例について考えを表出できるよう演習を行うので活発な発言を期待する			
到達目標	同職種、他職種との連携を主体にケース課題や事例について分析・考察し、考えを表出できる			
授業計画				
1	オリエンテーション	他職種連携を主体に考え、合理的かつ実践的なチーム医療について理解できる		
2	役割分担について	PT・OTの分業や協業、さらに多職種との具体的な分業について理解できる		
3	症例検討①	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる		
4	症例検討②	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる		
5	症例検討③	脳卒中片麻痺の症例についてディスカッションおよび発表できる		
6	症例検討④	進行性神経難病の症例についてディスカッションおよび発表できる		
7	症例検討⑤	進行性神経難病の症例についてディスカッションおよび発表できる		
8	症例検討⑥	スポーツ障害の症例についてディスカッションおよび発表できる		
9	症例検討⑦	スポーツ障害の症例についてディスカッションおよび発表できる		
10	症例検討⑧	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる		
11	症例検討⑨	高次脳機能障害の症例についてディスカッションおよび発表できる		
12	症例検討⑩	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる		
13	症例検討⑪	運動器疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる		
14	症例検討⑫	内部疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる		
15	症例検討⑬	内部疾患の症例についてディスカッションおよび発表できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション医学	石田 裕二	1	1	後期
授業概要	リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーションについて考えられるよう講義を行う			
到達目標	リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解できる			
授業計画				
1	オリエンテーション	リハビリテーションを学ぶにあたり、基本的な用語やポイントについて理解できる		
2	リハビリテーションに深くかかわる解剖生理学①	2回にわたり、筋骨格系の構造と機能（筋収縮や関節運動など）、神経系の構造と機能（上位運動ニューロンと下位運動ニューロン 脳神経など）を具体的な症状と照らし合わせて理解できる		
3	リハビリテーションに深くかかわる解剖生理学②			
4	脳血管疾患 ①	CI(脳梗塞)、CH(脳出血)、SAH(クモ膜下出血)等について学習し、リハビリテーションに関係する症状について概略を理解できる		
5	脳血管疾患 ②	症状と脳の機能局在の関係性を学習し、脳血管疾患が引き起こす症状について理解できる		
6	脳血管疾患 ②	脳血管疾患により出現する様々な臨床症状について理解できる		
7	認知症	認知症の分類、症状について理解し、患者への介入法の概要を理解できる		
8	脊髄損傷 ①	脊損の病理、高位診断と残存機能の関係について理解できる		
9	脊髄損傷 ②	残存機能とADLの関係、OT/PTの介入の方法について理解できる		
10	神経筋疾患 ①	神経原性の変性疾患を中心に学習し、理解を深める		
11	神経筋疾患 ②	筋原性の疾患を中心に学習し、理解を深める		
12	内部障害 ①	呼吸器系の疾患について理解を深める		
13	内部障害 ②	循環器（心臓を中心に）の疾患について理解ができる		
14	内部障害 ③	膠原病や代謝性疾患（糖尿病など）について理解できる		
15	整形外科疾患	RA, OA, FF(大腿骨々折)、切断・離断、肩関節障害などについて理解できる		
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第3版	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション概論	横山 寛子	1	1	前期
授業概要	リハビリテーションの理念・概要について、対象者や理学療法士の役割、リハビリテーションに関わる専門職との連携などについて理解できるよう講義・グループワークを行う。			
到達目標	リハビリテーションの理念をふまえ、具体的な障害例に対する理学療法士の役割やリハビリテーションに関わる専門職との連携について理解できる。			
授業計画				
1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの語源・定義、目的について理解できる。		
2	理学療法・作業療法とは	理学療法・作業療法の概要について理解できる		
3	医療・福祉に関わる専門職・チーム医療	医療及び保健・社会福祉に関わる専門職とチーム医療について理解できる。		
4	障害モデル・ICIDH・ICF	障害モデル・ICIDH・ICFについて理解できる。		
5	疾患と機能障害	リハビリテーションで関わる疾患と機能障害について理解できる。		
6	活動と参加	活動と参加について理解できる。		
7	ICFフレームワーク	症例を通してICFフレームワークを実践できる。		
8	障害モデル まとめ	障害モデルについて理解できる		
9	言語聴覚療法①	失語症、構音障害(麻痺性・失調性)について理解できる。		
10	言語聴覚療法②	嚥下障害等について理解できる。		
11	運動器疾患のリハビリテーション	運動器疾患のリハビリテーションについて理解できる。		
12	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーションについて理解できる。		
13	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションについて理解できる。		
14	ノーマライゼーション	ノーマライゼーションや障害者自立支援について理解できる。		
15	ユニバーサルデザインバリアフリー	ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて理解できる。		
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第3版	履修条件	15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
社会福祉学	八重樫 優	1	2	前期
授業概要	社会福祉についての成り立ちや歴史，現代の日本の福祉について理解できるよう講義を行う			
到達目標	社会福祉の考え方の変遷，現代の日本の福祉制度の利点と問題点について理解できる また，地域医療福祉の観点から，道南・函館地域の福祉について理解を深める			
授業計画				
1	オリエンテーション	社会福祉とは何か，その本質的な理念について理解ができる		
2	世界と日本の 社会保障と福祉の歴史	世界と日本の社会保障と福祉の歴史について理解できる		
3	日本の医療・福祉制度の 変遷	日本の医療・福祉制度の変遷について理解できる		
4	社会保険・ 社会保障制度の概要 I	社会保険・社会保障制度の概要について理解ができる		
5	社会保険・ 社会保障制度の概要 II	社会保険・社会保障制度の概要について理解ができる		
6	高齢者福祉	高齢者福祉について理解できる		
7	障害者福祉	障害者福祉について理解できる		
8	児童家庭福祉	児童家庭福祉について理解できる		
9	公的扶助	公的扶助について理解ができる		
10	1~9限のまとめ	1~9限の授業内容について理解できる		
11	社会福祉援助技術の方法 各論	社会福祉援助技術の方法について理解できる		
12	社会福祉援助技術の方法 総論	社会福祉援助技術の方法について理解できる		
13	医療・介護・福祉の連携 I	医療・介護・福祉の連携について理解できる		
14	医療・介護・福祉の連携 II	医療・介護・福祉の連携について理解できる		
15	総まとめ	本科目すべての授業内容について理解できる		
教科書	適宜、資料を配布する	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域包括ケアシステム論	工藤 達也	1	2	後期
授業概要	医療・福祉，地域リハビリテーションを担う様々な専門職の役割を理解できるような授業を展開し，多職種連携による包括的な地域医療福祉活動の必要性を論じる			
到達目標	道南の地域医療と医療福祉連携について理解できる			
授業計画				
1	地域包括ケアシステムについて ①	現代における地域包括ケアシステムの重要性について理解できる		
2	地域包括ケアシステムについて ②	実例を参考にして地域包括ケアシステムの具体的な「形」について理解できる		
3	役割：看護師 ①	地域包括における看護師の役割について理解できる（業務の概要について）		
4	役割：看護師 ②	地域包括における看護師の役割について理解できる（フィジカルアセスメントについて）		
5	役割：医師	地域包括における医師の役割について理解できる		
6	役割：社会福祉士	地域包括における社会福祉士の役割について理解できる		
7	役割：ケアマネジャー	地域包括におけるケアマネジャーの役割について理解できる		
8	役割：理学療法士・作業療法士	地域包括における理学療法士・作業療法士の役割について理解できる		
9	役割：言語聴覚士	地域包括における言語聴覚士の役割について理解できる		
10	多職種連携 ①	医療連携について理解できる（キュアとケアの合理的な連続性について）		
11	多職種連携 ②	医療連携について理解できる（多職種連携のメリットについて）		
12	多職種連携 ③	医療連携について理解できる		
13	多職種連携 ④	医療連携について理解できる		
14	自立支援	多職種連携による自立支援活動について理解できる		
15	まとめ	多職種連携における各職種の役割および包括的な地域医療福祉活動の必要性を理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考	グループワークも適宜行う			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法概論	工藤達也	2	1	前期
授業概要	理学療法の定義と歴史を理解し医療ならびに社会全体における理学療法の位置づけ、基本的な理学療法の理論、知識と技術について把握する。また、理学療法を施行する上で関わる障害や疾患について理解を深める。			
到達目標	理学療法・理学療法士に関する基本的知識を理解できる。 理学療法の定義や治療手段、対象となる障害、理学療法士の役割について理解できる。			
授業計画				
1	オリエンテーション	理学療法概論で学習する内容や基礎科目との関連性を理解できる		
2	理学療法の定義・歴史	理学療法の歴史と定義について理解できる。		
3	理学療法に関わる法律 ①	理学療法士および作業療法士法について理解できる。		
4	理学療法に関わる法律 ①			
5	理学療法の流れ ①	理学療法が行われる際の一連の流れ、臨床思考過程について理解できる。		
6	理学療法の流れ ②			
7	疾患と機能障害 ①	疾患と機能障害の関連性やそれぞれの意味について理解できる。また、疾患についての調べ学習を通じて疾患と機能障害について理解を深める。		
8	疾患と機能障害 ②			
9	活動と参加	活動と参加のそれぞれの意味や違い、疾患や機能障害との関連性について理解できる。		
10	ICIDHとICF	ICIDHとICFの関係性やそれぞれの特徴、考え方について理解できる。		
11	住環境と理学療法 ①	家屋改修や福祉用具など在宅における理学療法士の関わりを理解できる。 歩行補助具体験を通じて、各歩行補助具の特徴やメリット・デメリットを理解できる。 また、屋外での車椅子乗車・操作体験を通じて、屋外での移動に対する理解を深める。		
12	住環境と理学療法 ②			
13	病院の機能と役割 ①	理学療法士の主な活動の場である病院について、病期の違いによる役割や実施されているリハビリテーション、病棟機能などを理解できる。又、函館市の主要な病院についての調べ学習を通じて理解を深める。		
14	病院の機能と役割 ②			
15	重心と支持基底面 ①	重心と支持基底面の関係性や、基本動作における重心および支持基底面の変化について理解できる。また、基本動作体験を通じて理解を深める。		
16	重心と支持基底面 ②			
17	理学療法に必要な知識 関節可動域制限 ①	関節の構造や機能、関節可動域の定義や評価・測定方法について理解できる。 関節可動域制限の主な原因について理解できる。 疑似的な関節可動域制限の状態を体験することでADLに及ぼす影響について理解できる。		
18	理学療法に必要な知識 関節可動域制限 ②			
19	理学療法に必要な知識 関節可動域訓練 ①	関節可動域訓練の手技方法や適応について理解できる。また、関節可動域訓練の実技を通じて理解を深める。		
20	理学療法に必要な知識 関節可動域訓練 ②			
21	理学療法に必要な知識 筋力低下 ①	筋肉の機能や構造、筋力の定義や評価・測定方法について理解できる。 筋力低下の主な原因について理解できる。		

22	理学療法に必要な知識 筋力低下 ②	筋力低下の理由について理解できる。 各収縮様式の違いやOKCとCKCの違いについて実技を通じて理解を深める。	
23	理学療法に必要な知識 筋力増強訓練 ①	筋力増強訓練の手技方法や作用および効果について理解できる。また、筋力増強訓練の実技を通じて理解を深める。	
24	理学療法に必要な知識 筋力増強訓練 ②		
25	理学療法に必要な知識 体力・持久力 ①	体力・持久力の定義や評価、測定方法について理解できる。 運動に必要なエネルギーを作り出す仕組みについて理解できる。	
26	理学療法に必要な知識 体力・持久力 ②		
27	理学療法に必要な知識 持久力増強訓練 ①	体力・持久力低下の原因について理解できる。 体力・持久力訓練の方法を講義と実技を通じて理解できる。	
28	理学療法に必要な知識 持久力増強訓練 ②		
29	理学療法に必要な知識 バイタルサイン	バイタルサインの定義や評価・測定方法について理解できる。	
30	まとめ	理学療法および理学療法士に関する基本的知識、理学療法の対象や主な治療手段について理解できる。	
教科書	適宜、資料を配布する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法 I	工藤達也	2	1	後期
授業概要	理学療法を行う上で基礎となる技術を習得し、解剖学・生理学・運動学分野の総合的理解を深める			
到達目標	理学療法の基本知識を理解することができる 基本的な運動療法を解剖学、生理学、動学に理解することができる			
授業計画				
1	オリエンテーション 骨の触診 ①	オリエンテーション, 骨盤帯のランドマークの確認および触診方法を習得する		
2	骨の触診 ①	骨盤帯のランドマークの確認および触診方法を習得する		
3	骨の触診 ②	上肢帯のランドマークの確認および触診方法を習得する		
4	骨の触診 ②	上肢帯のランドマークの確認および触診方法を習得する		
5	骨の触診 ③	上肢のランドマークの確認および触診方法を習得する		
6	骨の触診 ③	上肢のランドマークの確認および触診方法を習得する		
7	骨の触診 ④	下肢のランドマークの確認および触診方法を習得する		
8	骨の触診 ④	下肢のランドマークの確認および触診方法を習得する		
9	骨の触診 ⑤	脊柱の触診方法の習得および触診のためのランドマークを理解する		
10	骨の触診 ⑥	胸郭の触診方法を習得する		
11	筋の触診 ①	上肢の主要な筋の起始・停止の確認および触診方法を習得する		
12	筋の触診 ①	上肢の主要な筋の起始・停止の確認および触診方法を習得する		
13	筋の触診 ②	下肢の主要な筋の起始・停止の確認および触診方法を習得する		
14	筋の触診 ②	下肢の主要な筋の起始・停止の確認および触診方法を習得する		
15	総演習①	各触診方法についての総演習①		
16	総演習②	各触診方法についての総演習②		
17	姿勢観察 ①	視診と触診による姿勢観察のポイントを理解する		

18	姿勢観察 ②	姿勢観察により得た情報を記載する方法を習得する	
19	起立動作観察 ①	起立動作のメカニズムおよび動作観察のポイントを理解する	
20	起居動作観察 ②	起立動作観察により得た情報を記載する方法を習得する	
21	関節可動域訓練 演習①	関節可動域制限の原因および関節可動域訓練について理解を深める	
22	関節可動域訓練 演習②	関節可動域訓練の具体的手法を習得する	
23	関節可動域訓練 演習③	ストレッチングについて理解を深める	
24	関節可動域訓練 演習④	ストレッチングの具体的手法を習得する	
25	筋力増強訓練 演習①	筋力低下の原因および筋力増強訓練について理解を深める	
26	筋力増強訓練 演習②	上肢の筋力増強訓練の具体的手法を習得する	
27	筋力増強訓練 演習③	下肢の筋力増強訓練の具体的手法を習得する	
28	筋力増強訓練 演習④	道具を用いた筋力増強訓練の具体的手法を習得する	
29	総演習③	関節可動域訓練および筋力増強訓練についての総演習①	
30	総演習④	関節可動域訓練および筋力増強訓練についての総演習②	
教科書	資料を配布する	履修条件	30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と中間テスト、定期テストの結果を総合して成績に反映させる 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・触診を行う機会が多いため、ある程度の肌の露出が可能ならにできればTシャツ・短パンで講義に臨むこと 		

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
基礎理学療法Ⅱ	外館 洸平	2	2	前期
授業概要	理学療法評価の基礎となる姿勢・動作観察の方法を学び、文章として報告できるようにグループワークを中心に演習していく。			
到達目標	理学療法に必要な姿勢・動作観察の表記方法や方法を学ぶ			
授業計画				
1	物理療法演習①	物理療法機器の使用方法について演習を行う		
2	物理療法演習②	物理療法機器の使用方法について演習を行う		
3	物理療法演習③	物理療法機器の使用方法について演習を行う		
4	物理療法演習④	物理療法機器の使用方法について演習を行う		
5	基本動作観察① (立位・起立, 着座)	オリエンテーション、グループワーク①(立位・起立, 着座動作の観察・表記)		
6	基本動作観察② (立位・起立, 着座)	グループワーク②(立位・起立, 着座動作の観察・表記)		
7	基本動作観察③ (立位・起立, 着座)	グループワーク③(立位・起立, 着座動作の観察・表記)		
8	基本動作観察④ (立位・起立, 着座)	グループワーク④(立位・起立, 着座動作の観察・表記)		
9	基本動作観察⑤ (背臥位・寝返り)	グループワーク⑤(背臥位・寝返り動作の観察・表記)		
10	基本動作観察⑥ (背臥位・寝返り)	グループワーク⑥(背臥位・寝返り動作の観察・表記)		
11	基本動作観察⑦ (背臥位・寝返り)	グループワーク⑦(背臥位・寝返り動作の観察・表記)		
12	基本動作観察⑧ (背臥位・寝返り)	グループワーク⑧(背臥位・寝返り動作の観察・表記)		
13	基本動作観察⑨ (座位・起き上がり)	グループワーク⑨(座位・起き上がり動作の観察・表記)		
14	基本動作観察⑩ (座位・起き上がり)	グループワーク⑩(座位・起き上がり動作の観察・表記)		
15	基本動作観察⑪ (座位・起き上がり)	グループワーク⑪(座位・起き上がり動作の観察・表記)		
16	基本動作観察⑫ (座位・起き上がり)	グループワーク⑫(座位・起き上がり動作の観察・表記)		
17	歩行観察①	グループワーク⑬(歩行の観察・表記)		
18	歩行観察②	グループワーク⑭(歩行の観察・表記)		

19	歩行観察③	グループワーク⑮(歩行の観察・表記)	
20	歩行観察④	グループワーク⑯(歩行の観察・表記)	
21	応用動作① (床上動作)	グループワーク⑰(床上動作の観察・表記)	
22	応用動作② (床上動作)	グループワーク⑱(床上動作の観察・表記)	
23	応用動作③ (床上動作)	グループワーク⑲(床上動作の観察・表記)	
24	応用動作④ (床上動作)	グループワーク⑳(床上動作の観察・表記)	
25	応用動作⑤ (段差昇降)	グループワーク㉑(段差昇降の観察・表記)	
26	応用動作⑥ (段差昇降)	グループワーク㉒(段差昇降の観察・表記)	
27	応用動作⑦ (段差昇降)	グループワーク㉓(段差昇降の観察・表記)	
28	応用動作⑧ (段差昇降)	グループワーク㉔(段差昇降の観察・表記)	
29	グループディスカッション①	任意の動作観察について時間内にまとめ、発表準備ができる	
30	グループディスカッション②	動作観察の内容を、プレゼンテーションできる	
教科書	基本動作の評価と治療アプローチ (メジカルビュー社)	履修条件	30回の講義なので、12回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	グループワークでの課題、個人でのレポート課題、グループでの発表の成果をもとに、総合的に判断する		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習 I	横山 寛子	2	1	後期
授業概要	評価は、効果的な理学療法を実施するうえできわめて重要な理学療法プロセスに位置づけられる。本科目では、評価の意義や目的、その一連の進め方について学習する。また、理学療法における基本的検査・測定技術であるバイタルサインの計測、形態計測法、関節可動域測定法、筋力測定法について講義および演習を通して習得する。			
到達目標	理学療法評価における各種検査・測定手技（形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査法）を学び、その基本的手技を実施できるようになる。			
授業計画				
1	オリエンテーションおよび評価学概論	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明、評価とは何かを理解できる		
2	一般的評価事項	問診・観察・面接（すべての始まり）を通して、「見立て」にはどのような情報が必要か理解できる		
3	生体の計測 ①	血圧、脈拍などのバイタルサインの計測方法について理解できる		
4	生体の計測 ②	身長、体重、体格指数、四肢長、周径の計測を演習し、その正確な手法を習得し、測定値の臨床的意味について理解できる		
5	関節可動域測定 総合演習①	関節可動域（ROM）とはなにか、また、臨床におけるROMの情報（具体的な数値、抵抗感、end feel など）の重要性についても理解できる		
6	肩関節の可動域測定	肩関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、肩関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
7	肘関節の可動域測定	肘関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、肘関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害（スポーツ障害も含む）について理解を深める		
8	手関節の可動域測定	手関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、手関節のROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
9	関節可動域測定 総合演習 ②	関節可動域測定の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる		
10	関節可動域測定 総合演習 ③	関節可動域測定の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる		
11	股関節の可動域測定	股関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、股関節の運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
12	膝関節の可動域測定	膝関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、膝関節の解剖学的特徴もふまえて、運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な原因について理解を深める		
13	足関節の可動域測定	足関節のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、足関節の解剖学的特徴もふまえて、運動学的特徴とROM制限を引き起こす様々な原因について理解を深める		
14	体幹・頸部の可動域測定	体幹・頸部のROM測定を演習し、手技を習得できる。また、測定に関わる多くの調整事項（代償運動の抑止など）についても理解できる		
15	関節可動域測定 総合演習 ④	関節可動域測定の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる		
16	関節可動域測定 総合演習 ⑤	関節可動域測定の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる		
17	筋力検査総合演習 ①	筋力とは何かを理解できる。徒手筋力検査（MMT）の概略、臨床的意義について概略を理解できる。		
18	肩関節の筋力検査	肩関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、肩関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
19	肘関節の筋力検査	肘関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、肘関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
20	手関節の筋力検査	手関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる。また、手関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める		
21	筋力検査総合演習 ②	筋力検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる		

22	筋力検査総合演習 ③	筋力検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる	
23	股関節の筋力検査	股関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる また、股関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める	
24	膝関節の筋力検査	膝関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる また、膝関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める	
25	足関節の筋力検査	足関節のMMT測定を演習し、手技を習得できる また、足関節の筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める	
26	体幹・頸部の筋力検査	体幹・頸部のMMT測定を演習し、手技を習得できる また、それらの筋力低下を引き起こす様々な疾患・障害について理解を深める	
27	筋力検査総合演習 ④	ハンドヘルドダイナモメーターの利点について理解する。また筋力検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる	
28	筋力検査総合演習 ⑤	筋力検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる	
29	筋力検査総合演習 ⑥	筋力検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる	
30	総合演習	血圧・脈拍の計測、関節可動域検査、筋力検査の総復習を通じて、臨床に必要な技能を習得することができる	
	教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・新徒手筋力検査法（第9版） ・基礎運動学（第6版） ・理学療法評価学（標準理学療法学 専門分野） 	履修条件 30回の講義なので、7回以上欠席すると定期試験を受験できない
	参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法のための解剖学的触診技術上肢 ・運動療法のための解剖学的触診技術体幹下肢 	留意事項等 できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
	成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで、適宜小テスト（筆記・実技）を実施する ・小テストの結果と期末テストの結果を総合して成績に反映させる 	
	備考		

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅱ	工藤 達也	2	2	前期
授業概要	評価の意義や目的、その一連の進め方について学習する。また、理学療法における基本的検査・測定技術である感覚・知覚検査、反射・病的反射、疼痛検査、筋緊張検査、片麻痺機能検査、協調性検査、整形外科疾患検査、姿勢反射・バランス・平衡機能検査など、講義および演習を通して習得する。			
到達目標	理学療法評価を実施するために、各種検査法を理解し、実施することができる			
授業計画				
1	オリエンテーション	本授業の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を聞き理解できる		
2	関節可動域測定の復習	評価学演習Ⅰで実施した関節可動域(ROM)測定の概要や臨床における情報(具体的な数値、抵抗感、end feel など)の再確認し理解を深める		
3	体幹・頸部の可動域測定	体幹・頸部のROM測定を演習し、手技を習得できる		
4	手関節の可動域測定	手関節のROM測定を演習し、手技を習得できる		
5	感覚・知覚検査①	上行性伝導路と伝導される感覚モダリティについて理解し、感覚、知覚、認知の定義に基づき、感覚検査の目的と基本検査手技を習得する		
6	感覚・知覚検査②			
7	反射検査①	monosynaptic な深部反射、polysynaptic な表在反射、錐体路障害により出現する病的反射、frontal signsなどの臨床的意義を理解し、それらの検査の基本的手技を演習を通じて習得する		
8	反射検査②			
9	感覚・知覚検査、反射検査 総演習①	感覚・知覚検査、反射検査の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得できる		
10	感覚・知覚検査、反射検査 総演習②			
11	疼痛検査①	様々な痛みの種類、それらを引き起こす病態について理解し、具体的な痛みの評価を演習・体験し、方法・手技を習得する		
12	疼痛検査②			
13	筋緊張検査①	錐体路障害、錐体外路障害により出現する筋緊張異常について理解を深め、それらについての検査手技を習得する		
14	筋緊張検査②			
15	片麻痺機能検査①	片麻痺の運動機能評価に使用される「上田式12段階片麻痺機能検査」を演習を通じて手技を習得し、片麻痺患者の運動機能障害について理解を深める		
16	片麻痺機能検査②			
17	疼痛検査、筋緊張検査、 片麻痺機能検査総演習①	疼痛検査、筋緊張検査、片麻痺機能検査総演習の復習を通じて、臨床に必要な技能を習得できる		
18	疼痛検査、筋緊張検査、 片麻痺機能検査総演習①			
19	協調性検査①	小脳性失調と脊髄性失調の比較から、様々な協調性障害の症状を理解し、適切な検査手技を習得できる		
20	協調性検査②			

21	整形外科疾患検査①	様々な頸部・上肢疾患の症状を理解し、それらについての徒手的な検査手技を演習を通じて習得する	
22	整形外科疾患検査②		
23	整形外科疾患検査③	様々な下肢・脊柱疾患の症状を理解し、それらについての徒手的な検査手技を演習を通じて習得する	
24	整形外科疾患検査④		
25	協調性検査, 整形外科疾患検査総演習①	協調性検査, 整形外科疾患検査の復習を通じて, 臨床に必要な技能を習得できる	
26	協調性検査, 整形外科疾患検査総演習②		
27	姿勢反射・バランス・平衡機能検査①	外乱に対する姿勢制御機構を再考し, 臨床的な検査・評価ができる	
28	姿勢反射・バランス・平衡機能検査①		
29	総合演習①	既習の各検査を再現し, 総合的知識・技能を深める	
30	総合演習②		
教科書	理学療法評価学 (標準理学療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので, 7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	できるだけ欠席せず, 予習復習を怠らないこと
成績評価	30回の講義のなかで, 適宜小テスト(筆記・実技)を実施する. 小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる.		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法評価学演習Ⅲ	外館 洸平	2	2	後期
授業概要	これまで修得した知識を整理し、技能の向上および患者とのコミュニケーション、知識の具現化を図る。なお、演習では学内において臨床現場を想定した医療面接や検査測定に関する客観的臨床能力試験（以下、OSCE）を実施する			
到達目標	これまで学内で修得してきた知識ならびに技術の総まとめを行うとともに、臨床に即した医療面接や検査測定手技の応用について学び、臨床実習を円滑に実施できるようになる			
授業計画				
1	オリエンテーション	講義計画の概要及びOSCE（客観的臨床能力試験）についての説明を聞き理解できる		
2	触診・形態計測 ①	習得した解剖学・運動学の知識や検査・測定手技の技能を復習・再確認し、健全な人間の形態と疾患や障がいによる異常な形態を臨床的視点から判別できる		
3	触診・形態計測 ②			
4	関節可動域測定 ①	習得した解剖学・運動学の知識や検査・測定手技の技能を復習・再確認し、健全な人間の関節可動域と疾患や障がいによる可動域制限やend feelなどを臨床的視点から判別できる		
5	関節可動域測定 ②			
6	徒手筋力測定法 ①	習得した解剖学・運動学の知識や検査・測定手技の技能を復習・再確認し、健全な人間の筋力と疾患や障がいによる筋力異常を臨床的視点から判別できる		
7	徒手筋力測定法 ②			
8	徒手筋力測定法 ③			
9	神経学的アセスメント	深部反射、病的反射、筋委縮評価、筋緊張評価、感覚検査、脳神経検査、協調性検査など、臨床で行われる神経学的検査の目的や手法を再確認し、仮想症例での演習の中で理解を深める		
10				
11				
12				
13	片麻痺機能検査 ①	上田式12段階片麻痺機能検査の手技や臨床的意義を復習し、上位ニューロン障害の症状について理解を深める		
14	片麻痺機能検査 ②			
15	ADL(基本動作)の評価 ①	基本動作（寝返り、起き上がり、立位）、車椅子の移乗動作などを演習し、具体的なADLの評価を理解する		
16	ADL(基本動作)の評価 ②			
17	ADL・IADLの評価 ①	具体的なADL・IADLの評価を演習を通じて理解する		
18	ADL・IADLの評価 ②			

19	評価技能の基本的事項 ①	介入における導入（挨拶，面談，問診），バイタルサインのチェック，問診・視診などによる「見立て」，リスクや危険・禁忌行為について理解できる	
20	評価技能の基本的事項 ②		
21	総合演習 ①	既習の各検査に関して，確認と臨床応用をふまえた総合演習の中で，評価の重要性を理解する	
22	総合演習 ②		
23	総合演習 ③	前回の演習を基に各検査に関して，評価の重要性について理解を深める	
24	総合演習 ④		
25	プレOSCE ①	模擬患者に対して理学療法評価における検査・測定手技を用いた演習を行い，評価技能全般について理解を深める	
26	プレOSCE ②		
27	OSCE ①	OSCEを経験する中で，具体的な臨床技術を学習する	
28	OSCE ②		
29	OSCE振り返り ①	OSCE実施後，フードバックを行い，それぞれ不足している部分に対して再度演習を行い，臨床実習に向けた臨床能力を高める	
30	OSCE振り返り ②		
教科書	理学療法評価学(標準理学療法学 専門分野)	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	神経診察クローズアップ 第3版 講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	実技練習は適宜行うこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害理学療法治療学	吉田 俊教	1	2	後期
授業概要	ADLに影響する運動器障害，その背景にある各種の疾患について医学的な視点で理解を深め，具体的なリハビリテーションの技術について論じる			
到達目標	運動器障害に対する具体的な理学療法を理解し技術を習得する			
授業計画				
1	骨・筋の障害 ①	外傷による骨折，脱臼の病態を理解する		
2	骨・筋の障害 ②	各種の骨病変に関する知識を深めそれらに起因する運動障害を理解する		
3	骨・筋の障害 ③	筋疾患に関する知識を深めそれらに起因する運動障害を理解する		
4	骨・筋の障害 ④	関節可動域に制限を発生させる整形外科領域の疾患について学習する		
5	骨・筋の障害 ⑤	運動障害を惹起する代表的な整形外科領域の疾患について学習する		
6	変形を伴う疾患	特に関節リウマチ，変形性関節症，脊椎疾患についての理解を深める		
7	治療法 ①	各種障害に対応する理学療法について理解を深める		
8	脊髄損傷 ①	脊髄損傷の病態や高位診断について理解を深める		
9	脊髄損傷 ②	損傷部位と残存機能，ADL機能について理解を深める		
10	脊髄損傷 ③	脊髄損傷の患者の運動機能，神経症状などのアセスメントについて学習する		
11	脊髄損傷 ④	脊髄損傷の患者のADL指導を具体的に学習し理解を深める		
12	治療法 ②	脊髄損傷の各種障害に対応する理学療法について理解を深める		
13	病態学 ①	関節可動域（ROM）異常とは何かを理解する		
14	病態学 ②	筋委縮や筋力低下について理解し，対処法について理解を深める		
15	病態学 ③	運動器疾患に対するアセスメント，在宅リハについて理解する		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動器障害理学療法 治療学演習	横山寛子	1	2	後期
授業概要	運動器障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として、具体的なリハビリテーションについて論じ、臨床的な技能を身につけることができるよう演習する			
到達目標	様々な運動器障害への具体的な治療を計画、実施することができるようになる			
授業計画				
1	関節可動域制限	関節可動域制限の病態とその治療を理解・実践できる。		
2	筋力低下	筋力低下・筋萎縮の病態とその治療を理解・実践できる。		
3	痛み	痛み病態とその治療を理解・実践できる。		
4	下肢の疾患①	股関節疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
5	下肢の疾患②	膝関節疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
6	下肢の疾患③	足関節・足部疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
7	下肢の疾患④	下肢疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
8	上肢の疾患①	肩関節疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
9	上肢の疾患②	肘関節疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
10	上肢の疾患③	手関節・手指の病態とその治療を理解・実践できる。		
11	脊椎の疾患①	胸腰椎疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
12	脊椎の疾患②	頸椎疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
13	脊椎の疾患③	脊髄損傷の病態とその治療を理解・実践できる。		
14	脊椎の疾患④	脊椎疾患の病態とその治療を理解・実践できる。		
15	関節リウマチ	関節リウマチの病態とその治療を理解・実践できる。		
教科書	運動器疾患の治療とリハビリテーション ー手術・保存療法とリハビリテーションプログラムー	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	病気がみえる vol11 運動器・整形外科	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法研究法	外館 洸平	1	1	後期
授業概要	理学療法における研究方法について意義を知り、その方法を理解できるよう講義演習を行う			
到達目標	理学療法における研究方法について意義を知り、その方法を理解できる			
授業計画				
1	研究とは	研究の意義や方法についてガイダンスを受け、全体像をとらえる		
2	仮説について	仮説立てについて理解し、実践できる		
3	統計学から見る研究 ①	量的研究の実験デザインや方法について理解する		
4	統計学から見る研究 ②	量的研究の統計処理、解釈、考察や研究の連続性などについて理解する		
5	統計学から見る研究 ③	質的研究の実験デザインや方法について理解する		
6	統計学から見る研究 ④	質的研究の統計処理、解釈、考察や研究の連続性などについて理解する		
7	研究の実際 ①	実際の研究について講義を聞き理解することができる		
8	研究の実際 ②	実際の研究について講義を聞き理解することができる		
9	研究の実際 ③	実際の研究について講義を聞き理解することができる		
10	研究の実際 ④	実際の研究について講義を聞き理解することができる		
11	研究の実際 ⑤	実際の研究について講義を聞き理解することができる		
12	研究計画を立てる ①	研究計画を実際に立てることができる		
13	研究計画を立てる ②	研究計画を実際に立てることができる		
14	研究計画を立てる ③	研究計画を実際に立てることができる		
15	研究計画を立てる ④	研究計画を実際に立てることができる		
教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考	統計フリーソフト「R」に関する書籍・プリントを参考にすることがある			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害理学療法治療学	平塚 健太	1	2	後期
授業概要	リハビリテーションの中核的対象となる神経障害について深く学び、治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ			
到達目標	様々な神経症候を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる			
授業計画				
1	随意運動	随意運動のメカニズムと障害が生じる脳画像について理解できる		
2	随意運動と理学療法	随意運動の障害に対する理学療法を理解できる		
3	感覚障害	感覚障害のメカニズムと障害が生じる脳画像について理解できる		
4	感覚障害と理学療法	感覚障害の障害に対する理学療法を理解できる		
5	脳卒中急性期	脳卒中急性期におけるリスク管理と理学療法について理解できる		
6	姿勢障害	姿勢定位障害に対する理学療法を理解できる		
7	脳卒中の歩行障害①	脳卒中患者に特有の歩行を理解できる		
8	脳卒中の歩行障害②	脳卒中の歩行障害に対する理学療法を理解できる		
9	脳卒中の評価①	脳卒中患者に特有の評価を理解できる		
10	脳卒中の評価②	脳卒中患者に特有の評価を理解し、実践できる		
11	パーキンソン病	パーキンソン病に対する評価と治療を理解できる		
12	神経筋疾患	神経筋疾患に対する評価と治療を理解できる		
13	脊髄損傷	脊髄損傷に対する評価と治療を理解できる		
14	症例検討①	症例に必要な評価・理学療法を理解できる		
15	症例検討②	症例に必要な評価・理学療法を理解し、述べることができる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
神経障害理学療法治療学演習	中田 俊博	1	2	後期
授業概要	神経障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として、具体的なリハビリテーションについて論じ、臨床的な評価、治療の技能を身に付けることができるよう演習する			
到達目標	様々な神経障害への具体的なリハビリテーションを計画、実施することができるようになる			
授業計画				
1	姿勢反射	姿勢反射や原始反射の基本動作への影響について考察できる		
2	基本動作 ①	正常な基本動作（寝返り、起き上がりなど）のパターンを演習の中で理解できる		
3	基本動作 ②	基本動作の障害を神経学的、発達学的、障害学的に解釈できる		
4	基本動作 ③	基本動作の障害に対する治療を演習し、運動療法的な介入ができるようになる		
5	歩行 ①	正常歩行と異常歩行の相違点を分析・解釈できる		
6	歩行 ②	異常歩行に対するアプローチを立案・実施できるようになる		
7	運動療法 ①	中枢神経性麻痺に対するアプローチ（随意収縮、分離促通）ができるようになる		
8	運動療法 ②	末梢神経性麻痺に対するアプローチができるようになる		
9	運動療法 ③	錐体外路障害や小脳症状に対するアプローチができるようになる		
10	非運動性障害	感覚障害、覚醒レベルの低下などに対するアプローチができるようになる		
11	高次脳機能障害	失認、失行、失語のアセスメントや治療的介入ができるようになる		
12	脊髄損傷 ①	損傷部位の高さに応じた機能維持・向上を目的とするアプローチが理解できる		
13	脊髄損傷 ②	ADLを見据えた在宅でのアプローチの立案ができるようになる		
14	フィジカルアセスメント ①	リスク管理、全身的な生体機能の管理ができるようになる		
15	フィジカルアセスメント ②	神経障害の患者に対するアセスメントができるようになる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習			
科目名	教員氏名		単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学	工藤 達也 臺坂 恵子 中井 史世		1	2	後期
授業概要	高齢者や在宅クライアントによくみられる内部障害について深く学び、治療技術を臨床に反映できるよう実践的な内容を学ぶ				
到達目標	様々な内科的問題を医学的に解釈・統合し具体的な治療に反映できるようになる				
授業計画					
1	糖尿病 ①	糖尿病の分類と内科的治療法について理解できる			
2	糖尿病 ②	糖尿病に対する運動療法、生活指導について理解できる			
3	腎疾患	慢性腎不全の病態、透析患者へのアプローチについて理解できる			
4	がん ①	悪性腫瘍の種類、病態や治療法について理解できる			
5	がん ②	緩和ケアを含めたがんへの介入法について理解できる			
6	呼吸器疾患 ①	呼吸不全の循環器への影響、酸塩基平衡への影響について説明できる			
7	呼吸器疾患 ②	換気機能障害、慢性的な呼吸不全患者のアセスメントができる			
8	呼吸器疾患 ③	慢性呼吸器疾患に対するリハビリテーションについて説明できる			
9	循環器疾患 ①	心不全を引き起こす病態を説明できる			
10	循環器疾患 ②	虚血性心疾患の特徴を理解し説明できる			
11	循環器疾患 ③	多くの臨床情報をもとに全身状態のアセスメントできるようになる			
12	循環器疾患 ④	モニター心電図の情報からリスク管理を行えるようになる			
13	循環器疾患 ⑤	基本的な心臓リハビリテーションの目的や手法の知識を習得する			
14	喀痰吸引演習 ②	在宅クライアントに対する喀痰・吸引について、対象となる疾患・障害や実施上の注意点などが理解できる			
15	喀痰吸引演習 ③	喀痰・吸引を演習の中で体験し、手技を習得する			
教科書	検討中		履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中		留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 				
備考					

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
内部障害理学療法治療学演習	工藤 達也	1	2	後期
授業概要	内部障害理学療法治療学で学習した知識を基盤として、具体的なリハビリテーションについて論じ、臨床的な評価、治療の技能、喀痰吸引の技術を身に着けることができるよう演習する			
到達目標	様々な内科系疾患から派生する内部障害への具体的なリハビリテーションを計画し実施することができるようになる			
授業計画				
1	糖尿病 ①	糖尿病に対する機能的作業療法の介入，生活指導の趣味レーションができる		
2	糖尿病 ②	糖尿病患者の在宅リハのマネジメントができる		
3	腎疾患	慢透析患者への具体的なアプローチを理解できる		
4	悪性腫瘍	悪性腫瘍の種類や進行度，生命予後を踏まえたアプローチ，緩和ケアを含めた具体的な介入法について理解できる		
5	呼吸器疾患 ①	各種の計測機器（聴診器やパルスオキシメーターなど）を使った評価ができるようになる		
6	呼吸器疾患 ②	呼吸リハビリテーションについて実践を通じて経験し理解を深める		
7	循環器疾患 ①	運動負荷試験を実践し呼吸器と循環器の機能的関連性について理解できる		
8	循環器疾患 ②	循環器疾患と全身状態との関係を医学的に説明できる		
9	循環器疾患 ③	心筋梗塞の回復過程に即したADL指導ができるようになる		
10	高齢者の運動機能障害	廃用症候群をアセスメントし治療計画を立案できるようになる		
11	訪問看護 ①	在宅クライアントに対する看護アセスメントの概略が理解できる		
12	訪問看護 ②	在宅クライアントに対する具体的な看護業務について理解できる		
13	高齢者の運動機能障害 ①	長期臥床や廃用の影響を評価し治療プログラムを立案できる		
14	高齢者の運動機能障害 ②	フレイルやサルコペニアについてそれらの概念を学習する		
15	まとめ	内部障害への具体的なリハビリテーションを計画し実施することができる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
物理療法学演習	外館 洸平	1	1	後期
授業概要	物理療法は物理的なエネルギーを外部から人体に適応し、疼痛の緩和、循環の改善、リラクゼーションの目的で使用する治療法である。授業では、各療法の原理、生体に与える生理学的作用、実施上の適応と禁忌、物理療法プログラムの実際を理解する。			
到達目標	理学療法において運動療法とともに治療手段の両輪をなす「物理療法」を理解するために、各種物理的エネルギーが生体に及ぼす生理学的作用、リスク管理について学び、説明できる。また、基本的な物理療法機器を操作、実践できる。			
授業計画				
1	物理療法学総論・リスク管理	物理療法の歴史と今後の課題・展望、物理療法におけるリスク管理		
2	温熱療法 ①	温熱療法の定義・分類、温熱療法の基礎と生理学的作用、ホットパック、パラフィン、超音波療法、極超短波療法		
3	温熱療法 ②	温熱療法の定義・分類、温熱療法の基礎と生理学的作用、ホットパック、パラフィン、超音波療法、極超短波療法		
4	寒冷療法 ①	寒冷療法の定義・分類、寒冷療法の基礎と生理学的作用、寒冷療法の実際		
5	寒冷療法 ②	寒冷療法の定義・分類、寒冷療法の基礎と生理学的作用、寒冷療法の実際		
6	水治療法 ①	水治療法の定義・分類、水治療法の基礎と生理学的作用、水治療法、渦流浴、気泡浴、交代浴、水中運動療法		
7	水治療法 ②	水治療法の定義・分類、水治療法の基礎と生理学的作用、水治療法、渦流浴、気泡浴、交代浴、水中運動療法		
8	電気刺激療法 ①	電気刺激療法の定義・分類・基礎と生理学的作用、神経筋電気刺激/治療的電気刺激、経皮的電気神経刺激、機能的電気刺激、ハイフットパッド、高電圧電気刺激		
9	電気刺激療法 ②	電気刺激療法の定義・分類・基礎と生理学的作用、神経筋電気刺激/治療的電気刺激、経皮的電気神経刺激、機能的電気刺激、ハイフットパッド、高電圧電気刺激		
10	光線療法 ①	光線療法の定義・分類、光線療法の基礎と生理学的作用、紫外線療法、赤外線療法、レーザー療法		
11	光線療法 ②	光線療法の定義・分類、光線療法の基礎と生理学的作用、紫外線療法、赤外線療法、レーザー療法		
12	牽引療法 ①	牽引療法の定義・分類、牽引療法の基礎と生理学的作用、頸椎牽引、骨盤牽引		
13	牽引療法 ②	牽引療法の定義・分類、牽引療法の基礎と生理学的作用、頸椎牽引、骨盤牽引		
14	マッサージ療法 ①	マッサージ療法の定義・分類、マッサージ療法の基礎と生理学的作用、伝統的マッサージ、軟部組織モビライゼーション		
15	マッサージ療法 ②	マッサージ療法の定義・分類、マッサージ療法の基礎と生理学的作用、伝統的マッサージ、軟部組織モビライゼーション		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害理学療法治療学	服部 範行 野澤 綾子	1	2	後期
授業概要	発達障害理学療法治療学で学ぶ内容を深く掘り下げて学び、具体的な治療について実践できるよう演習を含めて授業を行う			
到達目標	発達障害児（者）に対する理学療法の臨床実践的な治療について理解することができる			
授業計画				
1	発達障害とは	発達障害について概念を理解できる		
2	新生児疾患の理学療法	様々な新生児疾患の概要について理解し、それらと理学療法との関係が理解できる また、NICUにおける治療についても概略を理解できる		
3	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺の病理・症状などについて理解を深め、理学療法の適応が理解できる		
4	脳性麻痺の理学療法	脳性麻痺のタイプを理解し、それらに対する具体的な理学療法が計画できる		
5	知的発達障害の理学療法 ①	知的発達障害児（者）の特徴について理解できる		
6	知的発達障害の理学療法 ②	知的発達障害児（者）に対する理学療法について理解できる		
7	進行性筋ジストロフィの理学療法	進行性筋ジストロフィの種類・病態などの知識を深め、具体的な理学療法についてその意義や目的を臨床的に説明できる		
8	重症心身障害児の理学療法	重症心身障害児（者）の理学療法の必要性について説明できる		
9	骨関節疾患の理学療法	先天性骨関節疾患の病理や症状の知識を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
10	二分脊椎の理学療法	二分脊椎の病理や症状の知識を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
11	自閉症スペクトラムのPT	自閉症スペクトラムの特徴について理解を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
12	学習障害の理学療法	学習障害児の特徴（筋緊張や運動機能など）について理解を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
13	注意欠陥多動症の理学療法	注意欠陥多動症児の特徴について理解を深め、それらに対する理学療法について説明できる 広汎性発達障害の概念を理解できる		
14	小児がんの理学療法	小児がんの種類や病理について理解を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
15	内部障害の理学療法	様々な小児領域の内部障害について理解を深め、それらに対する理学療法について説明できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
発達障害理学療法治療学演習	服部 範行 野澤 綾子	1	2	後期
授業概要	発達障害理学療法治療学で学ぶ内容を深く掘り下げて学び、具体的な治療について実践できるように演習を含めて授業を行う			
到達目標	発達障害児（者）に対する理学療法の臨床実践的な治療について理解することができる			
授業計画				
1	新生児疾患の理学療法	周産期の障害を深く理解し7, NICUにおける理学療法士の活動について理解できる		
2	脳性麻痺の理学療法 ①	脳性麻痺児のタイプ分類や主症状の特徴（病理や主症状）について理解を深める		
3	脳性麻痺の理学療法 ②	脳性麻痺児の評価、運動性・非運動性障害のみかたについて理解できる		
4	脳性麻痺の理学療法 ③	脳性麻痺児への（諸家の治療理論による）アプローチの概要を理解し、基本的な運動療法的介入法を実践できる		
5	脳性麻痺の理学療法 ④			
6	進行性筋ジストロフィの理学療法	PMDの病理・分類・症状の特徴を理解し、機能的アプローチを含めた理学療法について理解を深める		
7	重症心身障害児の理学療法	重複障害を伴う重症心身障害児に対する理学療法について、その目的・方法を理解し実践できる		
8	骨関節疾患の理学療法	小児領域の骨関節疾患の病理・症状などの医学的知識を学習し、年齢や生活環境に即した具体的な理学療法を実践できる		
9	二分脊椎の理学療法	二分脊椎の病理・症状を学習し、具体的な理学療法を実践できる		
10	感覚統合療法 ①	自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動障害（ADHD）の患者に対応する「感覚統合療法」についてその概略が理解できる		
11	感覚統合療法 ②	感覚統合療法に関わる評価法について概略を理解し、遊びの中での治療効果について理学療法の視点から考察できる		
12	感覚統合療法 ③	感覚統合療法の手法を小グループごとに体験し、その適応と治療的効果について学習し実践できる		
13	小児がんの理学療法	小児がんの病理・種類を学習し、理学療法士の取り組みについて理解を深める		
14	内部障害の理学療法	小児の内部障害の病理・種類を学習し、理学療法士の取り組みについて理解を深める		
15	症例検討	提示された仮想症例に対する評価・治療プログラムを演習の中で計画し、臨床的な技能を習得する		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
老年期理学療法治療学	福井 瑞恵	1	2	後期
授業概要	加齢に伴う心身機能の変化の特徴、疾患や障害について理解し、全人間的な介入法を考えられるように講義を行う			
到達目標	老年期の心身機能の特徴、生活習慣や環境、QOLの維持向上に直結する役割行動などを理解し、具体的な理学療法や在宅リハについて考察できるようになる			
授業計画				
1	総論	老年期の心身機能の変化について、その概略が理解できる		
2	高齢者の社会的役割	人生経験を積み上げた高齢者の役割の重要性について理解できる		
3	社会活動の重要性	社会交流の場を保証し、QOLの維持向上に向けた理学療法士の取り組みについて理解できる		
4	高齢者の生活について	稼働年齢をこえた高齢者の生活活動について、様々なパターンを類推し、高齢者の心身の健康について理解できる		
5	高齢者の心理	高齢者の心理について理解できる		
6	高齢者の心肺機能	高齢者の心肺機能や背景にある内部疾患などについて理解できる		
7	高齢者の自律神経機能	若年者と比較した高齢者の自律神経機能について理解できる		
8	高齢者の筋力について	高齢者の筋力について、サルコペニアを例に挙げて低運動による障がいの本質を理解できる		
9	高齢者の栄養状態	高齢者の栄養状態について学習し、在宅リハにおける具体的なアセスメントや指導内容について理解できる		
10	高齢者の代謝	生理学的視点から高齢者の代謝機能の特徴について理解できる		
11	高齢者に対する理学療法 ①	虚弱高齢者に対する理学療法について、具体例を通して理解できる		
12	高齢者に対する理学療法 ②	高齢者のADLについて、具体例を通して理解できる		
13	高齢者に対する理学療法 ③	認知症の病態と理学療法の介入について理解できる		
14	高齢者に対する理学療法 ④	高齢者の「生きがい・楽しみ」について、その本質を理解できる		
15	高齢者に対する理学療法 ⑤	運動器障害全般の問題（歩行・バランス・骨粗鬆症なども含む）に関する包括的な理学療法におけるアセスメントについて実践できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
運動療法学	工藤 達也	1	2	前期
授業概要	本科目では、関節可動域制限や筋力低下といった基本的な運動障害の原因について理解するとともに各種運動療法を実施するうえで必要となる基礎理論について学習する。また、基本的な運動療法について実技演習を行う。			
到達目標	基本的な運動障害の原因を理解し、目的に応じた運動療法を選択、実施できるようになるために、基本的な知識、技術を身につける。			
授業計画				
1	関節可動域制限の原因と運動障害	関節可動域制限の原因および関節可動域制限による運動障害の特徴を理解する		
2	関節可動域制限に対する運動療法Ⅰ	頸部・体幹に対する関節可動域訓練を実技演習を通じて理解する		
3	関節可動域制限に対する運動療法Ⅱ	上肢・下肢に対する関節可動域訓練を実技演習を通じて理解する		
4	関節可動域制限に対する運動療法Ⅲ	ストレッチングの理論および代表的な方法について理解する		
5	関節可動域制限に対する運動療法Ⅳ	各種ストレッチングの実施方法を実技演習を通じて理解する		
6	痛みと運動障害	痛みの種類、原因および痛みによる運動障害の特徴について理解する		
7	痛みに対する運動療法	痛みの軽減および痛みによって生じる運動制限に対する運動療法について理解する		
8	筋力低下の原因と運動障害	筋力低下の原因および筋力低下による運動障害の特徴を理解する		
9	筋力低下に対する運動療法	筋力増強の理論および各収縮様式に応じた訓練方法を実技演習を通じて理解する		
10	自主トレーニング指導	退院指導の一環として提供する自主トレーニングの作成方法について学ぶ		
11	姿勢・バランス異常の原因と運動障害	姿勢異常やバランス障害の原因および代表的な姿勢調節障害について理解する		
12	姿勢・バランス障害に対する運動療法	姿勢・バランス障害に対する運動療法について実技演習を通じて理解する		
13	感覚障害に対する運動療法	感覚障害の原因および代表的な運動療法について理解する		
14	歩行障害に対する運動療法Ⅰ	正常歩行の運動学的パターン特性および逸脱運動の原因や代償運動について理解する		
15	歩行障害に対する運動療法Ⅱ	異常歩行に対する基本的な運動療法を実技演習を通じて理解する		
教科書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際-第2班	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	講義内で適宜参考資料を配布する	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果および課題の成績を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学	横山 寛子	1	2	前期
授業概要	各障害に適した補装具を処方できる基礎能力を養い、生活支援や環境制御に有効な一つの手法であることを考察する			
到達目標	各種の障害と照らし合わせて補装具の機能やその具体的な用途について説明できるようになる			
授業計画				
1	装具総論	装具の目的と装具を理解するために必要な運動学について理解できる		
2	下肢の装具①	短下肢装具の機能と適応について理解できる		
3	下肢の装具②	長下肢装具の機能と適応について理解できる		
4	下肢の装具③	靴型装具の機能と適応について理解できる		
5	疾患特有の装具	疾患特有の装具の機能と適応について理解できる		
6	体幹装具	頸部・胸部・腰部の補装具の機能と適応について理解できる		
7	上肢の装具	肩・肘・手・指関節の補装具・スプリントの機能と適応について理解できる		
8	装具のまとめ	各装具の機能と適応について理解できる		
9	義肢総論	義肢の目的と義肢を理解するために必要な運動学について理解できる		
10	断端評価・管理	切断術後の断端評価と断端管理について理解できる		
11	義足①	大腿義足の名称、構造と機能、その適応について理解できる		
12	義足②	下腿義足の名称、構造と機能、その適応について理解できる		
13	義足③	膝義足・股義足・サイム義足・足部義足の構造と機能、その適応について理解できる		
14	義手	前腕・上腕義手の構造と機能、その適応について理解できる		
15	義肢のまとめ	各義足・義手の機能と適応について理解できる		
教科書	『シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版 (南江堂)』		履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	講義内で適宜提示		留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テスト・中間テスト・期末テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考	医療物理学・運動学・運動学演習を復習して講義に臨むこと			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
補装具学演習	横山 寛子	1	2	後期
授業概要	補装具学で学習した基礎的な知識をもとに、チェックアウト			
到達目標	各種障害に適応する補装具の機能と臨床適応について理解できる			
授業計画				
1	下肢装具の チェックアウト①	装具装着下における歩行について理解できる。		
2	下肢装具の チェックアウト②	短下肢装具・長下肢装具のチェックアウトについて理解できる。		
3	頸部体幹装具・上肢装具の チェックアウト	頸部体幹装具・上肢装具のチェックアウトについて理解できる。		
4	装具の作成①	装具の作成過程について理解し、実践できる。		
5	装具の作成②	装具の作成過程について理解し、実践できる。		
6	義手	義手の種類と適応について理解できる。		
7	断端管理	切断術後の断端管理について理解し、実践できる。		
8	義足の歩行	義足歩行の特徴を理解できる。		
9	義足のアライメント評価①	異常歩行分析と指導、アライメント調整について理解できる。		
10	義足のアライメント評価②	異常歩行分析と指導、アライメント調整について理解できる。		
11	義肢装具療法の実際①	装具・義肢の製作、仮合わせ、調整について理解できる。		
12	義肢装具療法の実際②	一般的な装具・義肢の種類と適応について理解できる。		
13	義肢装具療法の実際③	最新の装具・義肢の種類と適応について理解できる。		
14	義肢装具療法の実際④	義肢装具士と理学療法士との連携について理解できる。		
15	まとめ	装具・義肢の臨床に必要な知識について総復習を通じて理解できる。		
教科書	『シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版 (南江堂)』	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	講義内で適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テスト・中間テスト・期末テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学	羽澤 晃士	1	2	前期
授業概要	疾患や障害への理解を深め、それぞれの特徴に適した日常生活活動や介助方法について掘り下げて学習することを目的とする			
到達目標	疾患や障害への理解を深めるとともに、一般的な動作パターンやその介助方法、車いすや自助具などの操作方法について理解することができる			
授業計画				
1	ADLの概念 総論①	ADLの概念、QOLやICFとの関連について理解することができる		
2	ADLの分類 総論②	基本的日常生活活動（BADL）、手段的日常生活活動（IADL）、生活関連活動（APDL）について理解することができる		
3	ADLの評価方法	BI（できるADL）、FIM（しているADL）について理解することができる		
4	脳卒中片麻痺①	疾患や機能障害の概要について理解することができる		
5	脳卒中片麻痺②	ADLの特徴や介助方法、練習指導について、車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる		
6	脳卒中片麻痺③			
7	リウマチ①	疾患や機能障害の概要について理解することができる		
8	リウマチ②	ADLの特徴や介助方法、練習指導について、車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる		
9	リウマチ③			
10	脊髄損傷①	疾患や機能障害の概要、評価基準について理解することができる		
11	脊髄損傷②	四肢麻痺のADLの特徴や介助方法、練習指導について、車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる		
12	脊髄損傷③			
13	脊髄損傷④	対麻痺のADLの特徴や介助方法、練習指導について、車いすや自助具などの名称や操作方法を通して理解することができる		
14	脊髄損傷⑤			
15	ADLの採点演習	症例情報からFIMやBIを用いて採点することができる		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト ADL	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	・標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 ・脳卒中患者の機能評価 SIASとFIMの実際	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
日常生活活動学演習	羽澤 晃士	1	2	後期
授業概要	各疾患や障害の動作に対して分析的に観察し、表出することができ、治療的に系統立てた考えを持つことができるよう講義演習を行う			
到達目標	各疾患や障害の動作に対して分析的に観察し、表出することができ、治療的に系統立てた考えを持つことができる			
授業計画				
1	動作分析とは ①	動作分析について理解し、分析的な視点を持つことができる		
2	動作分析とは ②	動作分析について理解し、分析的な視点を持つことができる		
3	姿勢について	姿勢について理解し、分析的な視点を持つことができる		
4	座位について	座位について理解し、分析的な視点を持つことができる		
5	立位について	立位について理解し、分析的な視点を持つことができる		
6	寝返り	寝返りについて理解し、分析的な視点を持つことができる		
7	起き上がり	起き上がりについて理解し、分析的な視点を持つことができる		
8	立ち上がり 座位から	座位からの立ち上がりについて理解し、分析的な視点を持つことができる		
9	立ち上がり 床から	床からの立ち上がりについて理解し、分析的な視点を持つことができる		
10	歩行 ①	歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる		
11	歩行 ②	歩行について理解し、分析的な視点を持つことができる		
12	ADL動作 ①	ADL動作について理解し、分析的な視点を持つことができる		
13	ADL動作 ②	ADL動作について理解し、分析的な視点を持つことができる		
14	症例検討 ①	症例検討で動作分析をはじめとした評価を行い治療計画ができる		
15	症例検討 ②	症例検討で動作分析をはじめとした評価を行い治療計画ができる		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト ADL	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 ・脳卒中患者の機能評価 SIASとFIMの実際 	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
高次脳機能障害学	外館 洸平	1	2	前期
授業概要	様々な原因で生じる高次脳機能についての知識を習得し、症状別のリハビリテーションについて考えることができるように講義および評価演習を行う。			
到達目標	高次脳機能障害についての知識と、それに付随する神経系の構造・機能を理解でき、症状別のリハビリテーションについて考えることができる。			
授業計画				
1	高次脳機能障害学総論	高次脳機能障害とはなにか、リハビリテーションの流れについて理解できる		
2	脳の構造と働き	脳の構造と部位ごとの働きについて理解できる		
3	大脳の機能局在と障害	大脳の機能局在と、各部位が障害された場合の症状の概要を理解できる		
4	空間認知障害 ①	半側空間無視を中心に、空間認知障害の発生メカニズムを理解できる		
5	空間認知障害 ②	半側空間無視の評価と介入について理解できる		
6	空間定位障害	Pusher現象を中心に、空間定位障害の発生メカニズムと評価、介入を理解できる		
7	遂行機能障害	遂行機能障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる		
8	情動・社会的行動障害	情動・社会的行動障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる		
9	注意障害・記憶障害	注意障害・記憶障害の症状と評価、介入の際の注意点を理解できる		
10	失行	失行の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる		
11	失認	失認の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる		
12	失語	失語の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる		
13	認知症	認知症の分類と評価、介入の際の注意点を理解できる		
14	脳画像読影	高次脳機能障害に関連するCT、MRI画像を読影することができる		
15	社会制度	高次脳機能障害の支援に必要な社会制度について理解できる		
教科書	高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	必要に応じて提示する	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・小テスト、中間テスト、期末テストの結果を総合して成績に反映する			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
リハビリテーション工学演習	濱田貴文・古館裕大	2	2	前期
授業概要	リハビリテーションに応用される工学技術について、多くの事例を紹介する。さらに、講義で述べた技術について、セラピストの観点から問題提起や技術の提案などの演習を行う。			
到達目標	医療現場や在宅で利用される技術について触れることができ、身近に存在する問題点を工学技術により解決する手段を学ぶ。			
授業計画				
1	オリエンテーション	講義の概要を理解することができる。また、工学の医療分野への応用について、様々な事例を通して技術を知ることができる。		
2	リハビリテーションと工学			
3	リハビリテーションとセンシング技術①	リハビリテーション領域における工学的な技術について、センサ工学の観点から事例に触れることができる。さらに、身の回りの事例を自ら調査し、現行の事例における問題提起を行うことができる。		
4	リハビリテーションとセンシング技術②			
5	リハビリテーションとセンシング技術③	リハビリテーション領域における工学的な技術について、センサ工学の観点から、現存する事例の仕組みをフローチャートにより表すことができる。		
6	リハビリテーションとセンシング技術④			
7	リハビリテーションとセンシング技術⑤	第7回において、リハビリテーションで導入されている技術の調査、問題提起、提案の一連の流れができる。第8回では、リハビリテーション領域における工学的な技術について、電気電子の観点から事例に触れることができる。		
8	リハビリテーションと電子工作技術①			
9	リハビリテーションと電子工作技術②	リハビリテーションで導入されている工学的な技術について、電気電子の観点から、事例に触れることができる。さらに、事例の仕組みを簡単な電気回路で表すことができる。		
10	リハビリテーションと電子工作技術③			
11	リハビリテーションと電子工作技術④	第11回では、事例の仕組みを簡単な電気回路で表すことができる。第12回では、実際に仕組みを提案し、簡単な電気回路で表すことができる。		
12	リハビリテーションと電子工作技術⑤			
13	センシング演習①	micro:bitとスマートフォンを利用して、リハビリテーションへの応用を見据えたアプリ開発ができる。		
14	センシング演習②			
15	センシング演習③	micro:bitとスマートフォンを利用して、リハビリテーションへの応用を見据えたアプリ開発ができる。		
16	センシング演習④			
17	センシング演習⑤	micro:bitとスマートフォンを利用して、リハビリテーションへの応用を見据えたアプリ開発ができる。		
18	センシング演習⑥			
19	センシング演習⑦	micro:bitとスマートフォンを利用して、リハビリテーションへの応用を見据えたアプリ開発ができる。		
20	センシング演習⑧			

21	電子工作演習①	micro:bitを用いた電気回路の設計・実装を行い、リハビリテーションへの応用を見据えたものづくりができる。	
22	電子工作演習②		
23	電子工作演習③	micro:bitを用いた電気回路の設計・実装を行い、リハビリテーションへの応用を見据えたものづくりができる。	
24	電子工作演習④		
25	電子工作演習⑤	micro:bitを用いた電気回路の設計・実装を行い、リハビリテーションへの応用を見据えたものづくりができる。	
26	電子工作演習⑥		
27	電子工作演習⑦	micro:bitを用いた電気回路の設計・実装を行い、リハビリテーションへの応用を見据えたものづくりができる。	
28	電子工作演習⑧		
29	リハビリテーション工学関連トピック① (医療福祉工学)	医療福祉工学における最新の研究や技術的な動向に触れることができる。	
30	リハビリテーション工学関連トピック② (医療福祉工学)		
教科書	特になし	履修条件	30回の講義なので7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	特になし	留意事項等	不明な点はいつでも教員にアクセスすること
成績評価	中間試験，期末試験，課題により総合的に評価する		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
コミュニケーション方法論演習	平塚 健太	1	1	後期
授業概要	現在はコミュニケーションの方法は多様化している。それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から、さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン、レポート、レジュメ作成までを理解し、実施できるよう学んでほしい（手紙の書き方も含める）			
到達目標	それぞれのコミュニケーション方法についての使用例から、さらに社会人としての伝達方法であるプレゼン、レポート、レジュメ作成までを理解し、実施できる			
授業計画				
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義と必要性を理解できる		
2	コミュニケーションの種類	様々なコミュニケーション方法について提示し、適用と適用外について述べる		
3	手紙の書き方	時節のあいさつを交えた社会人としての手紙の書き方を理解し、実践できる		
4	傾聴と質問	話の聞き方および質問の仕方を理解できる		
5	質問の仕方①	相手の話を聞き、良質な質問を実施できる		
6	質問の仕方②	相手の話を聞き、良質な質問を実施できる		
7	価値観	様々な価値観を受け入れ、価値観を共有することができる		
8	会話の始め方	会話を始める際のルールやマナーを理解し、実践できる		
9	資料の作り方①	相手にわかりやすい資料の作り方を理解できる		
10	資料の作り方②	相手にわかりやすい資料の作り方を理解し、実践できる		
11	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの方法について理解できる		
12	プレゼンテーション②	プレゼンテーションの方法を理解し、実践できる		
13	レポートの書き方	レポートの書き方について理解し、実践できる		
14	異文化コミュニケーション	様々な文化を学びし、対応を理解できる		
15	まとめ	講義の振り返り		
教科書	資料を配布する	履修条件	pcを使用する 15回の講義なので4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法管理学 I	平塚 健太	1	2	前期
授業概要	業務を実施するにあたり、リスクマネジメントや組織運営の観点からの個人の在り方までメタ認知を高めて行動できるよう講義を行う			
到達目標	業務を実施するにあたり、リスクマネジメントや組織運営の観点から、職場における個人の在り方について考えることができる			
授業計画				
1	理学療法管理学 総論	理学療法管理学の概念や背景について理解できる		
2	医療機関の分類と組織	医療機関の分類や組織構成・役割について理解できる		
3	医療保険制度	理学療法業務に必要な医療保険制度について理解できる		
4	介護保険制度と社会保障	理学療法業務に必要な介護保険制度と社会保障制度について理解できる		
5	介護予防の取り組み	地域の介護予防対策をセラピストの視点から考え、述べることができる		
6	診療・介護報酬制度①	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる		
7	診療・介護報酬制度②	リハビリテーション分野における収益構造を理解できる		
8	組織①	組織やチームについて理解できる		
9	組織②	組織やチームについて理解し、考えを述べることができる		
10	業務管理・労務管理	人事考課・時間外労働などの仕組みやハラスメント等について理解できる		
11	リスク管理	医療安全・感染症管理・クレーム対応などのリスク管理を理解できる		
12	臨床実習教育	臨床実習の学習目的や内容を理解できる		
13	卒前・卒後教育①	生涯学習に至る教育体制や内容を理解できる		
14	卒前・卒後教育②	生涯学習に至る教育体制や内容を理解し、考えを述べることができる		
15	リーダーシップ・マネジメント	管理職としてあるべき姿勢を理解できる		
教科書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	適宜提示	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法管理学Ⅱ	山田 竜大	1	2	後期
授業概要	管理・マネジメントについて職場から症例について範囲を広げて考えることができよう講義を行う			
到達目標	理学療法士の臨床現場における管理・マネジメント，リスク管理について，視野を広げて考えることができる			
授業計画				
1	総論 ①	診療活動のみならず，臨床研究，技術研修などの自己研鑽の必要性について理解できる		
2	総論 ②	新人教育のポイント，組織運営における個人の役割について理解できる		
3	総論 ③	診療記録，多職種・他施設への情報提供の必要性について理解できる		
4	総論 ④	突発事故（災害も含む），患者の急変など，緊急に対処を要する状況における理学療法士の行動について理解を深める		
5	各論 ① 身体障害 ①	急性期病棟（ICUやCCUも含む）における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
6	各論 ② 身体障害 ②	回復期病棟における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
7	各論 ③ 精神障害	精神科領域の患者における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
8	各論 ④ 発達障害 ①	発達障害領域（NICUも含む）の患者における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
9	各論 ④ 発達障害 ②	発達障害領域における通園・通所施設利用者のリスクマネジメント，支援について考えることができる		
10	各論 ⑤ 老年期障害 ①	老年期障害領域の患者における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
11	各論 ⑥ 老年期障害 ②	在宅の老年期障害患者における疾患別禁忌，リスクマネジメント，支援について考えることができる		
12	各論 ⑦ 老年期障害 ③	虚弱な高齢者におけるリスクマネジメント，支援について考えることができる		
13	各論 ⑧ 予防的介入	高齢者の予防医学的介入におけるリスクマネジメント，支援について考えることができる		
14	まとめ ①	重複障害についてのケースについて考えることができる		
15	まとめ ②	各種の医療施設，福祉施設における理学療法士の使命について理解できる		
教科書	検討中	履修条件	15回の講義なので，4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで，適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法演習 I	佐野 公秀 渡邊 友章	1	1	前期
授業概要	在宅において医療・福祉サービスを必要とする対象者（特に高齢者）の医学的問題点に触れ、函館市、道南地域のいける在宅リハビリテーションの重要性について論じる			
到達目標	理学療法士・作業療法士の地域活動についてその概略が理解できるようになる			
授業計画				
1	総論 ①	地域リハビリテーションの概略について理解できる		
2	総論 ②	函館市、道南地域の医療・福祉がどのように展開されているか理解できる		
3	総論 ③	函館市、道南地域の地域医療、在宅リハビリテーションの必要性が理解できる		
4	総論 ④	様々な障がいを持つ対象者に対する在宅リハにおけるPT・OTの業務や多職種連携について理解できる		
5	高齢者の心身機能 ①	ロコモティブシンドロームとは何かが理解できる		
6	高齢者の心身機能 ②	サルコペニアとは何かが理解できる		
7	高齢者の心身機能 ③	フレイルとは何かが理解できる		
8	高齢者の心身機能 ④	廃用症候群とは何かが理解できる		
9	高齢者の心身機能 ⑤	認知症の病理や症状の概略が理解できる		
10	高齢者の心身機能 ⑥	各種心身の医学的問題点への対処についてその概略が理解できる		
11	健康寿命 ①	健康な高齢者の身体機能について理解できる		
12	健康寿命 ②	筋力低下を来している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる		
13	健康寿命 ③	心肺機能が低下している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる		
14	健康寿命 ④	内部障害（悪性腫瘍、糖尿病など）により心身機能の低下を来している在宅のクライアントに対する理学療法について理解できる		
15	健康寿命 ⑤	予防的リハビリテーションの目的や効果について理解できる		
教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる 			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法演習Ⅱ	溝部 和	1	1	後期
授業概要	地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な基本的動作を実践的な立場から論じ、演習を通じて理解を深める			
到達目標	具体的な在宅リハビリテーションの業務を理解し、実際の現場で使用できるようにする			
授業計画				
1	基本動作 起居①	起居活動の制限に対する地域理学療法介入の目的を理解できる		
2	基本動作 起居②	寝返り動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する		
3	基本動作 起居③	起き上がり動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する		
4	基本動作 起居④	起立動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する		
5	基本動作 起居⑤	移乗動作の基本パターンを理解し援助方法を習得する		
6	基本動作 移動①	屋内外での移動制限に対する地域理学療法介入の目的を理解できる		
7	基本動作 移動②	歩行動作に対する援助方法を習得する		
8	在宅でのADL①	ADLに注目した地域理学療法介入の目的を理解できる		
9	在宅でのADL②	排泄動作や入浴動作に対する援助方法を習得する		
10	総合演習	各動作の援助方法についての総復習		
11	QOLのアプローチ	QOLの評価、QOLの向上を目的とした理学療法士の取り組みなどを理解できる		
12	臨床的な判断	緊急性が高い状況とは何かが理解できる		
13	在宅リハでのPE・PA	フィジカルイグザミネーション（PE）とフィジカルアセスメント（PA）の概略を理解できる		
14	多職種連携	フィジカルアセスメントで得た情報をどのように活用するかを理解できる		
15	記録と報告	在宅リハにおける記録・報告業務、多職種への情報提供などの意義と方法について理解できる		
教科書	資料を配布する	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と中間テスト、定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考	・実技が中心となるため、動きやすい服装で講義に望むこと			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法演習Ⅲ	羽澤 晃士	1	2	前期
授業概要	地域理学療法演習Ⅱで学習した基礎的な内容をふまえ、具体的な臨床技術を演習の中で経験させ、在宅リハにおける理学療法士の臨床活動について論じる			
到達目標	様々な対象者の症状を医学的にとらえ、在宅リハビリテーションにおけるセラピストの活動が理解できるようになる			
授業計画				
1	フィジカルアセスメント 総論 ①	フィジカルアセスメント (PA) の概要を理解することができる		
2	フィジカルアセスメント 総論 ②	フィジカルイグザミネーション (PE) とフィジカルアセスメント (PA) の違いや得た情報を統合して評価 (解釈) する流れを掴むことができる		
3	フィジカルアセスメント 総論 ③	生理学的・病理学的視点から根拠をもって全身状態を判断することの重要性を感じ、フィジカルアセスメント (PA) の意義を理解することができる		
4	バイタルサイン	バイタルサイン (体温・脈拍・血圧・呼吸) を計測する意義や方法について理解することができる		
5	地域リハビリの考え方と リスクマネジメント	高齢者が地域で在宅生活を継続する為の視点を学び、それに伴うリスクマネジメントを理解することができる		
6	地域での多職種連携	地域でかかわる多職種を理解することで、セラピスト (PT, OT) の役割を理解できる		
7	法制度と環境整備	介護保険等の関係法規を学び、在宅生活に必要な環境調整の意義を理解できる		
8	呼吸器系のPA ①	呼吸器系の解剖生理を把握し、問診、視診、触診 (体表解剖)、聴診、打診することの意義や方法について理解することができる		
9	呼吸器系のPA ②			
10	循環器系のPA ①	循環器系の解剖生理を把握し、問診、視診、触診 (体表解剖)、聴診、打診することの意義や方法について理解することができる		
11	循環器系のPA ②			
12	脳神経系のPA ①	脳神経の解剖や機能について把握し、各検査の意義や方法について理解することができる		
13	脳神経系のPA ①			
14	症例提示 ①	模擬症例を提示し、問診内容や症状から生理学的・病理学的視点で全身状態を診立てる思考過程について理解することができる		
15	症例提示 ②			
教科書	フィジカルアセスメントがみえる	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	リハビリテーションリスク管理ハンドブック 訪問リハ危険予知トレーニング	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
地域理学療法演習Ⅳ	羽澤 晃士	1	2	後期
授業概要	地域リハビリテーションを展開するうえで必要不可欠な技能であるフィジカルアセスメントの基礎的な考え方と具体的な方法について論じる			
到達目標	在宅リハビリテーションにおける高い医療技術の必要性や具体的な臨床技術が理解できるようになる			
授業計画				
1	総論 ①	在宅対象者の「診かた」についての基礎的な知識が理解できる		
2	総論 ②	フィジカルアセスメント (PA) の臨床的意義について理解できる		
3	総論 ③	具体例を通じて、PAの方法について、その概略が理解できる		
4	フィジカルアセスメント ①	病院内で運用されているRapid Response System(RRS)のコール基準を理解し、院内業務や在宅リハビリテーションへの応用について学習する		
5	フィジカルアセスメント ②	クライアントの基礎的な情報となる理学所見や計測値について、基準値と比較して評価できるようになる		
6	フィジカルアセスメント ③	発語・言語、会話内容、姿勢、身体の動きなどの情報から、クライアントの身体機能や精神心理機能の「見立て」ができるようになる		
7	フィジカルアセスメント ④	PAにおける「問診」、「視診」について、その要点が理解できる		
8	フィジカルアセスメント ⑤	聴診のポイントを学習し、聴診器を使ったアセスメントができるようになる		
9	フィジカルアセスメント ⑥	触診の演習を行い、異常所見を見つける方法について理解できる		
10	フィジカルアセスメント ⑦	PT・OTが必携する打腱器、聴診器、血圧計、パルスオキシメーターなどを使用し、総合的なPEの技術を復習し、PAの臨床的意義を説明できるようになる		
11	フィジカルアセスメント ⑧	神経学的検査の結果からクライアントの問題点を推測できるようになる		
12	フィジカルアセスメント ⑨	呼吸・循環器のPEができるようになる		
13	フィジカルアセスメント ⑩	筋・骨格系のPEができるようになる		
14	仮想症例のPA ①	仮想症例・模擬症例による演習から、具体的なPAの流れを習得する		
15	仮想症例のPA ②			
教科書	フィジカルアセスメントがみえる	履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない	
参考書	リハビリテーションリスク管理ハンドブック 訪問リハ危険予知トレーニング	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論 I	横山 寛子	1	3	前期
授業概要	臨床実習前の演習として、心構えや知識技術の補完をする			
到達目標	実習の心構えを自覚し、理学療法士としての基礎的な臨床技能を確立する			
授業計画				
1	理学療法評価演習 ①	インテークから情報収集、評価や治療の立案概要を理解できる		
2	理学療法評価演習 ②	神経学的検査、運動器の評価など、身体機能の評価を復習し、実践的な技能を身につける		
3	理学療法評価演習 ③			
4	ADLへの介入 ①	基本動作の評価、治療的介入法を復習し、実践的な技能を身につける		
5	ADLへの介入 ②			
6	歩行 ①	正常歩行の分析（歩容や定量的な分析）から評価基準を推定できる		
7	歩行 ②	各種の異常歩行の分析から、歩行訓練の方法を導き出せる		
8	運動療法 ①	各種の障害に対する運動療法を演習の中で学習し、実践的な能力を習得する		
9	運動療法 ②			
10	運動療法 ③			
11	運動療法 ④			
12	物理療法 ①	各症状に対応する物理療法を復習し、各効能を理解する		
13	物理療法 ②	演習を通じて、治療器具の扱い方や禁忌事項などについて理解を深める		
14	総括 ①	診療記録の作成の方法、リハビリテーションカンファレンスへの対応など、実践的な演習の中で理学療法士としてのアイデンティティを高める		
15	総括 ②	既習の学習内容を総括し、各領域の理学療法士の役割について理解を深める		
教科書	既存の教科書を適宜使用する		履修条件	15回の講義なので、4回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中		留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと
成績評価	・15回の講義のなかで、適宜小テストを実施する ・小テストの結果と定期テストの結果を総合して成績に反映させる			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
理学療法学総論Ⅱ	平塚 健太	2	3	後期
授業概要	3年間の集大成として学べるよう講義を展開する			
到達目標	治療技術に直接活かせるような基礎・臨床医学の知識，理学療法専門分野の知識を再学習し，臨床能力を高め，その成果を国家試験対策に反映させることができる			
授業計画				
1	基礎・臨床医学領域： 骨格系の構造と機能 ①	骨の発生学，微細構造，形状，骨機能，骨疾患について理解できる		
2	基礎・医学領域 骨格系の構造と機能 ②	関節の形状とその動き，運動器疾患について理解できる		
3	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能 ①	筋の種類，収縮のメカニズム，エネルギー代謝・筋疾患などを理解できる		
4	基礎・臨床医学領域 筋の構造と機能 ②	筋の支配神経，神経筋接合部の機能，関節運動と筋収縮の関係などを理解できる		
5	基礎・臨床医学領域 神経系 ①	中枢神経の構造と機能，中枢神経障害による病態について理解できる		
6	基礎・臨床医学領域 神経系 ②	末梢神経の構造と機能，末梢神経障害による病態について理解できる		
7	基礎・臨床医学領域 神経系 ③	脊髄疾患，脊髄損傷の病態，自律神経の構造と機能について理解できる		
8	基礎・臨床医学領域 内臓系 ① 呼吸循環器	呼吸器・循環器構造と機能．それらの障害を惹起する代表的な疾患について理解できる		
9	基礎・医学領域 内臓系 ② 消化器	消化器に分類される臓器の構造と機能，代表的な疾患について理解できる		
10	基礎医学領域 内臓系 ③ 排泄	腎臓・膀胱の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる		
11	基礎・臨床医学領域 内分泌系	内分泌器官の構造と機能，代表的な疾患とその症状について理解できる		
12	基礎・臨床医学領域 先天性疾患	様々な遺伝病，周産期異常など，代表的な先天性疾患の症状について理解できる		
13	基礎・臨床医学領域 精神医学 ①	精神障害領域の疾患と治療について理解できる		
14	基礎・臨床医学領域 精神医学 ②	てんかん，認知症について理解できる		
15	基礎・臨床医学領域 小児科学領域	発達障害も含め小児科領域の疾患について理解できる		
16	基礎・臨床医学領域 臨床心理学	防衛機制，心理療法，各種検査について理解できる		
17	基礎・臨床医学領域 リハビリテーション医学	障害分類（ICF），障害受容，ユニバーサルデザインなどについて理解できる		

18	基礎・臨床医学領域 制度関連	理学療法士・作業療法士法，介護保険などの法制・制度を理解できる	
19	基礎・臨床医学領域 公衆衛生	感染予防，医療制度など，臨床現場に即した知識を習得する	
20	基礎・臨床医学領域 診断学 ①	脳の画像診断学について理解できる	
21	基礎・臨床医学領域 診断学 ②	胸部，腹部，四肢の画像診断学について理解できる	
22	基礎・臨床医学領域 診断学 ③	異常心電図の判読，心疾患の診断について理解する	
23	基礎・臨床医学領域 臨床薬理学	様々な症状に適応する薬剤について理解できる	
24	基礎・臨床医学領域 生化学検査	生化学的検査による正常基準と異常所見を惹起する疾患について理解できる	
25	基礎・臨床医学領域 PE・PA	フィジカルアセスメントに関連する各事項について理解できる	
26	専門領域 ①	運動器障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる	
27	専門領域 ②	神経障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる	
28	専門領域 ③	発達障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる	
29	専門領域 ④	老年期障害領域の理学療法について，その目的と方法を理解できる	
30	まとめ	理学療法の源流となる各種の理論について，理解を深める	
教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	30回の講義なので，7回以上欠席すると定期試験を受験できない
参考書	検討中	留意事項等	できるだけ欠席せず，予習復習を怠らないこと
成績評価	・30回の講義の中で数回小テストを行い，模擬試験の結果も勘案したうえで，各々の成績の合算により総合的に判定する		
備考			

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習 I	羽澤 晃士	1	1	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により、病院・施設における理学療法士の臨床活動を見学する			
到達目標	実習施設における職員の連携の様子を見学し、また、実際に患者や利用者に関わる中で、障害像や理学療法士の職務について理解を深めることができる			
授業計画				
1	<p>1単位（40時間）で行う臨床実習 I（見学実習）を通して、理学療法士の職務について理解を深める。 臨床場面における理学療法士の活動、他のリハビリテーション関連職種との連携業務を見学し、リハビリテーション業務の全体像を理解する。また、臨床教育者の指導により、患者（利用者）と個別にコミュニケーションをとり、大まかな障害像を把握できるように学習する。</p> <p>本実習では、それぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う。 臨床実習前の評価（8時間）により、どのような態度・視点で見学実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ。患者（利用者）との接し方、臨床教育者とのコミュニケーションのとりかた、当該実習施設の役割や使命、リハビリテーション部門の大まかな業務の流れ（処方・評価・治療など）、理学療法士の具体的な業務、などを事前に学習し、自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価（8時間）では、臨床実習 I で学び得たことを発表し、他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する。</p> <p>指定規則に則り、臨床実習 I、II、III、IVのいずれかで、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位（40時間）以上行うこととする</p>			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない	
参考書	既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	臨床実習前の評価、臨床実習後の評価、実習記録、課題等の成果物などを総合的に判断し評価する			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅱ	羽澤 晃士	3	2	後期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により、病院・施設における理学療法士の指導の下、見学・模倣の中で各種検査法の実習を行う			
到達目標	病院・施設における理学療法士の具体的な臨床活動、特に様々な障害に対応する各種の検査法について理解を深める			
授業計画				
1	<p>3単位（120時間）で行う臨床実習Ⅱ（検査実習）を通して、理学療法士が対象者の検査をどのように実施しているかを見学・模倣を通して理解を深める。臨床指導者の指導により、各障害に対応する適切な検査法を選択し、患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる。</p> <p>本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う。 臨床実習前の評価（24時間）により、どのような技能を身につけて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ。患者（利用者）との接し方、疾患・障害を理解するための情報収集の方法、対象者に応じた具体的な検査方法、その検査結果が示す健常者との相違点など、理学療法士が行っている検査法を事前に学習し、自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価（16時間）では、本実習で学び得たことを発表し、他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する。</p> <p>指定規則に則り、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのいずれかで、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位（40時間）以上行うこととする</p>			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない	
参考書	既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	臨床実習前の評価、臨床実習後の評価、実習記録、課題等の成果物などを総合的に判断し評価する			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅲ	羽澤 晃士	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により、病院・施設における理学療法士の指導の下、見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	病院・施設における理学療法士の具体的な一連の臨床活動（治療的介入）を見学・模倣・実施を通じて体験し、理解することができる			
授業計画				
1	<p>9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅲ（総合実習）を通して、理学療法士が対象者の検査・評価・治療をどのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め、各障害に対応する適切な治療法を選択し、患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる。</p> <p>本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う。 臨床実習前の評価（24時間）により、どのような技能を身につけて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ。患者（利用者）との接し方、疾患・障害を理解するための情報収集の方法、対象者に応じた具体的な検査・評価方法、その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈、理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し、自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価（16時間）では、本実習で学び得たことを発表し、他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する。</p> <p>指定規則に則り、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのいずれかで、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位（40時間）以上行うこととする</p>			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない	
参考書	既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	臨床実習前の評価、臨床実習後の評価、実習記録、課題等の成果物などを総合的に判断し評価する			
備考				

<input type="checkbox"/> 選択 <input checked="" type="checkbox"/> 必修		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習		
科目名	教員氏名	単位	配当年次	開講期
臨床実習Ⅳ	羽澤 晃士	9	3	前期
授業概要	臨床教育者のクリニカルクラークシップの要領による指導により、病院・施設における理学療法士の指導の下、見学・模倣・実施のプログラムの中で治療学実習を行う			
到達目標	病院・施設における理学療法士の具体的な一連の臨床活動（治療的介入）を見学・模倣・実施を通じて体験し、理解することができる			
授業計画				
1	<p>9単位（360時間）で行う臨床実習Ⅳ（総合実習）を通して、理学療法士が対象者の検査・評価・治療をどのように実施しているかを臨床教育者の指導のもとで見学・模倣・実施を通して理解を深め、各障害に対応する適切な治療法を選択し、患者（利用者）にそれを正確な手技で実施できるようになる。</p> <p>本実習ではそれぞれ臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を行う。 臨床実習前の評価（24時間）により、どのような技能を身につけて実習に臨めば目標を達成できるのかを学ぶ。患者（利用者）との接し方、疾患・障害を理解するための情報収集の方法、対象者に応じた具体的な検査・評価方法、その検査結果が示すICFに照らし合わせた問題点・利点の解釈、理学療法士が行う治療手技などを事前に学習し、自分で本実習の目標を立てることができるようになる。 臨床実習後の評価（16時間）では、本実習で学び得たことを発表し、他の学生からの質疑を通して到達目標を達成できたかを確認する。</p> <p>指定規則に則り、臨床実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのいずれかで、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を1単位（40時間）以上行うこととする</p>			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書	既存の教科書を適宜使用する	履修条件	全日程の1/5以上欠席すると単位を認定しない	
参考書	既存の教科書、ノート、ジャーナルなどの参考資料を有効に利用すること	留意事項等	できるだけ欠席せず、予習復習を怠らないこと	
成績評価	臨床実習前の評価、臨床実習後の評価、実習記録、課題等の成果物などを総合的に判断し評価する			
備考				